職業実践専門課程等の基本情報について

学校名		設置	超可年月	日	校县	長名			所在地			
熊本デザイン専	門学校	平成	5年12月2	4日	校長	内藤謙一	〒 (住所)	862-0973 熊本県熊本市中央I	区大江本町2−5			
設置者名		設力	区認可年月	I A	代表	者名	(電話)	096-364-8500	所在地			
学校法人未来創			22年3月			吉山昌利	〒 (住所)	862-0976 熊本県熊本市中央I				
				. н			(電話)	096-362-5656		fr etr		
分野	i	認定課程名			認定学科名	5	界[門士認定年度	高度専門士認定	.平度	城 耒夫战导	<u>「門課程認定年度</u>
文化・教養	I	業専門課程	呈		ンテリアデ [・] デザイン専り		平成	22(2010)年度	-		平成2	8(2016)年度
学科の目的	建築・イン	テリアデザイ	ン・家具等	の、空間デ	ザイン分野に	こおける幅広	い知識と実	践に必要となる技術を	有する人材を育成し、乳	美界へ送り	出すことを目的	りとする。
学科の特徴(取得 可能な資格、中退 率 等)	色彩検定、	福祉住環境	!コーディネ	ーター、リフ	フォームスタイ	イリスト、イン・	テリアコーテ	・ィネーター、宅地建物	取引士、建築士、建築が	拖工管理 技	支士等の取得を	音指す。
修業年限	昼夜	全課程の修	多了に必要 単位		持数又は総	講事	É	演習	実習	実	!験	実技
2 年	昼間	※単位時間、 かに記入	単位いずれ	1,920	単位時間単位	585	単位時間単位	1,335 単位時間 単位	0 単位時間	0	単位時間単位	0 単位時間
生徒総定員	生徒到	€員(A)	留学生	数(生徒実員の		留学生割·		中退率				
80 人	70	Α		0		0	%	3 %				
	■卒業者	数 (C)	:		12		<u>۲</u>		1			
	■就職希 ■就職者	望者数 (D) 数 (F)	:		11 11		<u> </u>					
	■地元就	職者数(F)	•		7							
	■就職率	(E/D) に占める地	元就職去の)割合 (F/F	100%		%					
					64%		%					
	■卒業者	に占める就職	は者の割合	(E/C)	92%		%					
就職等の状況	■進学者 ■その他	数			1		Ž					
	特記なし											
	17.11.5 0.0											
	(令和			に関する令	h和 7 年 5 月	1日時点の情	報)					
		職先、業界	寸									
	(令和6年度 建築設計		務店. ハワ	カスメーカ-	家具・イ	ンテリア雑貨	飯売店等					
					13.71	- , , , , , , ,	.,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,					
Mr 1		評価機関等 1、例えば以下						無				
第三者による 学校評価								₹型	価結果を掲載した			
, ,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,		評価団体:				受審年月:			一ムページURL			
当該学科の												
ホームページ URL	https://w	ww.kumamo	oto-design	n.ac.jp								
51,12	(A . 単/:	立時間による	(首中)									
	(A . #I	総授業時数								1 020	単位時間	
				こと 連维 しき	た実験・実際	留・実技の授	*				単位時間	
		-			た演習の授業		X+13X				単位時間	
		_	うち必修技		C/风日 07 汉 4	K #13 900					単位時間	
			را ها که د. ر		年と連進した	・必修の宝騇	· 宝翌 · 宝:	技の授業時数			単位時間	
						:必修の演習(以列及未可数			単位時間	
			(うた小*			- ンシップの					単位時間	
企業等と連携した 実習等の実施状況			(ノウ正オ	、サビ建携	したインダー	22970	以不时奴			U	半四時间	
(A、Bいずれか		立数による第	[定)									
に記入)	\ +1	総単位数								0	単位	
			うち企業等	手と連携した	た実験・実習	留・実技の単	位数				単位	
		-			た演習の単位					0	単位	
		_	うち必修単							0	単位	
					等と連携した	:必修の実験	・実習・実	技の単位数			単位	
						:必修の演習(単位	
			(うち企業			-ンシップの					単位	
		① 専修学	校の専門	果程を修了	した後、学校	交等におい						
		門課程の修	業年限と	当該業務に	た者であって 従事した期間	し、当該専 間とを通算	(専修学	校設置基準第41条第13	頁第1号)	1	人	
	して六年以上となる者											
		② 学士の	学位を有る	する者等			(専修学	校設置基準第41条第13	頁第2号)			
教員の属性(専任	任 ③ 高等学校教諭等経験者 (専修学校設置基準第41条第1項第3号)									<u> </u>		
教員の属性(専任 教員について記												
入)	② 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第4号) (E) その他 (車体学校設置基準第41条第1項第4号)											
		⑤ その他					(専修学	校設置基準第41条第13	貝弟5号)		人	
		計								4	人	
						ナるおおむね	5 年以上 <i>σ</i>	実務の経験を有し、	かつ、高	2		
	1	度の実務の	能力を有る	する者を想	定)の数						^	

- 1. 「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係
- (1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

業界における人材の専門性に関する動向、地域の産業振興の方向性、必要な実務に関する知識や技能などを十分に把握・分析したうえで、当該専門課程の教育を施すためにふさわしいと考えられる授業科目の開設や、授業内容・方法の改善・工夫を行い、企業の要請を十分に活かし、実践的かつ専門的な職業教育を主体的に行うために、教育課程編成委員会を設置する。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

教育課程編成委員会委員は学校法人未来創造学園職員及び企業・団体役職者等の外部委員からなるものとし、互いの視点からの意見を積極的に交換・活用し、より良い教育課程の編成を協力して行うものと位置付ける。

教育課程編成委員会は、各学科から示されたカリキュラム等の内容や実施状況について、業界において必要となる技術や知識を有する人材を育てる観点から十分な審議を行い、教育課程の編成や内容についての具体的な方策を講じ、意見表明を行う。その後、各学科において当該意見を反映した授業実施案を作成し、次回の教育課程編成委員会にて報告・審議・承認を受けたのち、学校長決裁を経て次年度教育課程が決定される。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和7年10月1日現在

名 前	所 属	任期	種別
島村 徹	一般社団法人熊本県建築士事務所協会 監事	令和6年4月1日~令和8年3 月31日(2年)	1
田中 誠一	株式会社コムハウス 代表取締役	令和6年4月1日~令和8年3 月31日(2年)	3
内藤 謙一	学校法人未来創造学園 熊本デザイン専門学校 学校長	令和7年4月1日~令和8年3 月31日(1年)	_
児玉 守	学校法人未来創造学園 熊本デザイン専門学校 教務部長	令和7年4月1日~令和8年3 月31日(1年)	_
千田 浩一	学校法人未来創造学園 熊本デザイン専門学校 教務	令和7年4月1日~令和8年3 月31日(1年)	_

- ※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①~③のいずれに該当するか記載すること。
- (当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「一」を記載してください。)
 - ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、
 - 地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
 - ②学会や学術機関等の有識者
 - ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員
- (4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回 (3月、8月)

(開催日時(実績))

第1回 令和6年10月3日 10:30~11:30 第2回 令和7年3月21日 14:00~15:00

- (5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況
- ※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

【第1回】

意見)生成AIの進化は予想以上であり、実務で使っている会社や事務所も増えてきた印象がある。カリキュラム・情報収集を含め、柔軟な対応を図ってほしい

(取組)Al関連の授業については今年度のカリキュラムは次年度採用できない可能性が高く、年度末に改めてカリキュラム更新を検討したい。また、教員をAl関連の研修に派遣し 最新の情報収集にも努める予定である。併せて、Al業界から優秀な人材を顧問として迎える計画も進めている。

【第2回】 (意見)業界の資格も様々あるが、授業科目と取得資格の関連をもっとはっきりしたほうが良い。学生の意欲創出につながると思う。また、授業実施時期と取得資格の試験日をリンクさせる工夫もしてほしい。

(取組)授業ガイダンス時点で、取得目標資格を明示し、試験日までのステップを細かく示すこととした。また、極力試験日にむけ授業を進められるよう授業実施時期を調整した。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

空間デザインに関連する業界における実践的な技術や知識を有する人材を育てることを目的とし、授業内容について企業側講師と担当教員が十分な検討を行ったうえで、できうる限り企業・業界の現場における実務プロセスやノウハウを重視した授業展開を行うことを基本方針とする。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

教育課程編成委員会等において出された意見を基に、事前に職業教育協定書により協定を締結した企業側講師と担当教員による綿密な打ち合わせを行い、授業内容や学修成果の評価方法を決定する。また、演習期間中は随時情報交換を行うことで、学修効果の向上を図るとともに、演習終了後には、企業側講師による学生の学修成果の評価を踏まえ、担当教員が成績評価を行う。

(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名 企業連携の方 科目概要 連携企業等 1. [校内]企業 現役建築士が、監理業務において担当した実例や現場での経等からの講師が全ての授業を主担当 験談を交えながら、3つの主要な構造(木造・鉄筋コンクリートが全ての授業を主担当 は・鉄骨造)の概要や構成、材料の特徴・特性等について講義する。 キムラハウジング	_	0/2017 HT H 1 10 XE 133 42 171 X		(数1)を5円日に20 に胎業8		
ー般構造 等からの講師 験談を交えながら、3つの主要な構造(木造・鉄筋コンクリート が全ての授業 造・鉄骨造)の概要や構成、材料の特徴・特性等について講義 キムラハウジング		科 目 名	企業連携の方	科目概要	連携企業等	
			等からの講師 が全ての授業	験談を交えながら、3つの主要な構造(木造・鉄筋コンクリート 造・鉄骨造)の概要や構成、材料の特徴・特性等について講義	キムラハウジング	

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

「学校法人未来創造学園熊本デザイン専門学校教職員研修規程」に基づき、専攻分野に係わる教員の資質(知識、技術、技能)が何かを、関連す る企業や関連団体等に広く意見を伺い、効果的な指導がなされるよう研修計画を立てて実施する。また、学級運営力の向上や教育法の習得等の 研修にも併せて取り組んでいく。研修機会としては、関連する企業や関連団体等から招いた講師による学内研修や、各種団体が開催する学外研修 が考えられる。

(2)研修等の実績

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名: JapanHome & Building Show 2024 連携企業等:一般社団法人日本能率協会

令和6年11月20日(水)~11月22日(金) 期間:

対象:建築・インテリア業界等

建材やインテリア製品、構造材・部材、設備、サービスなど住宅から商業施設、まちづくりにおける建築に関する幅広い最新情報を

内容

JAPAN BUILD - 建築の先端技術展 -研修名:

連携企業等: RX Japan株式会社

令和6年12月11日(水)~12月13日(金) 期間:

対象: 建築•不動産業界等

建築・建設・不動産業界の最新の製品が出展する専門展示会で、業界セミナーも開催され9コマ受講 内容

アイカ現代建築セミナー 研修名:

連携企業等:アイカ現代建築セミナー実行委員会

期間: 2024年11月27日(水) 対象: 建築業界等

内容 建築文化の向上と発展を目的に、国内外の著名な建築家を講師に迎え、住宅・環境・都市空間など幅広い分野にわたるセミナー

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名: 最新生成AIトレンドについて 連携企業等: 未来創造学園

期間: 令和6年7月31日(水)14時15分~16時 対象: 企業・学校関係者等

AI導入の成功事例、AI活用による地域戦略、人材育成の新しい方法論 内容

発達障害のある生徒への具体的な支援/合理的配慮 研修名:

連携企業等:熊本市発達障がい者支援センターみなわ

期間: 令和6年8月4日(木)10時~12時 対象: 学校関係者等

合理的配慮の基本、現場で悩みがちなケースの共有、支援や環境調整等についての考え方 内容

大学志向が高まる中での専門学校における学生募集戦略とは 研修名:

連携企業等:株式会社進研アド

令和6年9月24日(火)16時~17時 期間:

対象: 専門学校教職員等

高等教育機関[大学・専門学校]の最新動向、高校現場における進路研究の最新動向

(3)研修等の計画

内容

①専攻分野における実務に関する研修等

オルガテック東京2025 SHIFT DESIGN 研修名:

連携企業等:一般社団法人日本オフィス家具協会

期間: 令和7年6月3日(火)~6月5日(木) 対象:建築・インテリア業界等

オフィス家具やマテリアル、ICTテクノロジーなど、未来の働き方や空間づくりの最新トレンド情報の収集及び業界セミナーの受講 内容

研修名: JapanHome & BuildingShow2023 連携企業等:一般社団法人日本能率協会

令和7年11月19日(水)~11月21日(金) 期間:

対象: 建築・インテリア業界等

建材やインテリア製品、構造材・部材、設備、サービスなど住宅から商業施設、まちづくりにおける建築に関する幅広い最新情報を 内容

知る。

オンライン木造建築講座 研修名:

連携企業等: 高知県立林業大学校

期間: 2025年7月18日(金) 対象: 建築・インテリア業界等

「鉄と小径材で薄い一枚屋根をつくる」高知県産の流通製材を用い、鉄を適材適所に併用することで軽量かつ大スパンを覆う大屋 根を実現する構法について学ぶ。木材の地域利用に基づきつつ、鉄とのハイブリッドによる構造的合理性と意匠的洗練を両立させ る試み。

②指導力の修得・向上のための研修等

専門学校における発達障害支援とは? 研修名:

連携企業等: 筑波大学ダボットプロジェクト

対象: 一般·学校教職員等

期間: 令和7年1月16日(火)17時~19時

専門学校における発達障害支援をテーマとし、知見、学生支援の実態、支援ツールの活用について 内容

未来の専修学校をつくる~教員研修と卒業生調査のヒント~ 研修名:

連携企業等: 株式会社三菱総合研究所

期間: 令和7年2月18日(火)16時~18時

対象: 専門学校教職員等

教職員とともに成長する学校づくり、教職員への支援のあり方、卒業生調査の活用など 内容

教育目標の達成に向けた『入学前』からの指導体制づくり 研修名:

連携企業等:株式会社進研アド

期間: 令和7年8月26日(火)15時~16時 対象: 学校関係者等

近年の大学・短大・専門学校進学者の学力や学習習慣、進学意識について分析 内容

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当 たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1)学校関係者評価の基本方針

学校関係者評価は教職員で実施した自己評価を、企業・高等学校・保護者・卒業生等の学校関係者それぞれの視点から意見を伺い、お互いの理 解を深めるためのものとする。また、その評価の過程において、自己評価の妥当性を検証するとともに、客観性・透明性をより高め、公共性の高い 社会に寄与する学校を目指すことを基本方針とする。

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	教育理念·目標
(2)学校運営	学校運営
(3)教育活動	教育活動
(4)学修成果	学修成果
(5)学生支援	学生支援
(6)教育環境	教育環境
(7)学生の受入れ募集	学生の受入れ募集
(8)財務	財務
(9)法令等の遵守	法令等の遵守
(10)社会貢献・地域貢献	
(11)国際交流	

^{※(10)}及び(11)については任意記載

(3)学校関係者評価結果の活用状況

学生支援については概ね良い評価を受けた。学生対応は主に担任が窓口となり、当事者から十分にヒアリングし、本人の意思を確認して対応して いる。内容に応じて他分掌とも連絡を密にするよう注力しており、今までのとこと大きな問題となることはなく機能している。教育の内部質保証については、職業実践専門課程の認定に伴い順次対応を行っている。今後、情報管理システムを導入し、一元管理を行うととも

に、管理体制を階層化し、責任の所在を明確にして管理を徹底していきたい。

(4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

名 前	所 属	任期	種別
有田 滿里子	有限会社有田 代表取締役社長	令和7年4月1日~令和9年3月 31日(2年)	企業等委員
島村 徹	一般社団法人熊本県建築士事務所協会	令和7年4月1日~令和9年3月 31日(2年)	企業等委員
田中 千秋	株式会社放送技研 代表取締役	令和7年4月1日~令和9年3月 31日(2年)	企業等委員
古家 達也	株式会社フィールドワークス 代表取締役社長	令和7年4月1日~令和9年3月 31日(2年)	企業等委員
甲斐 広美		令和7年4月1日~令和8年3月 31日(1年)	保護者委員
内村 友造		令和7年4月1日~令和9年3月 31日(2年)	卒業生委員

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ・)広報誌等の刊行物・ その他(

IIRI · https://kumamoto-design.ac.jp/school/publishing

公表時期: 令和7年7月1日

- 5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供して いること。」関係
- (1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

企業等の学校関係者と連携・協力を通じて、健全な学校運営と教職員の資質向上に取り組んでいくことを目的とするため、教育活動等の学校運営 状況に関する情報を提供することを基本方針とする。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

(2)・守口子仪にのいる用私徒伏寺への	収組に関するカイドノイン」の項目との対心
ガイドラインの項目	学校が設定する項目
	ホームページ「学校案内」に掲載
	ホームページ「学科紹介」に掲載
(3)教職員	ホームページ「教員・職員紹介」に掲載
(4)キャリア教育・実践的職業教育	ホームページ「就職支援」に掲載
(5)様々な教育活動・教育環境	ホームページ「学校生活」に掲載
(6)学生の生活支援	ホームページ「学校生活」に掲載
(7)学生納付金・修学支援	ホームページ「入学案内」及び募集要項に掲載
(8)学校の財務	ホームページ「財務情報」に掲載
(9)学校評価	ホームページ「学校関係者評価結果」に掲載
(10)国際連携の状況	
(11)その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

(ホームページ・ 広報誌等の刊行物 ・ その他(

https://kumamoto-design.ac.jp/school/publishing URI ·

公表時期 令和7年7月1日

授業科目等の概要

				課程 建築・/	インテリアデザイン 科(建築デザイン専攻:] —	ス))								
		分類	Į į						授	業プ	5法	場	所	教	員	
	必修	択必	自由選択	授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授 業 時 数	単位数	講	演習	実験・実習・実技	校内	校外		兼任	企業等との連携
1	0			設計製図演習	建築設計に先立ち、製図用具の使い方から線の描き方等の基礎技術を修得する。建築設計製図の模写課題を通じ、実際に建築設計や現場で必要とされる建築設計製図の技術及び図面の読解力を修得する。	1 通	90		Δ	0		0		0		
2	0			建築計画 I	建築設計業務に携わった経験を持つ教員が、設計を行う上で必要となる基本的な寸法や各部の要点について解説した後、生活の基盤となる住空間から各種建築物にわたる様々な建築物の特徴や計画要点について解説を行う。		30		0			0		0		
3	0			空間意匠論	大学や専門学校で建築設計を教えた経験を持ち、建築設計事務所で意匠設計に携わった教員が、その見識や経験を活かしての講義をする。デザインは唯一の解発を持成し、それが社会と対話することにより生み出される。本講義では、これまで創られてきた建築・インテリアで間などを作者の考えと共に紹介し、学生に空間を構成し、うる多様な価値観・概念を習得させることを目的とする。	1 通	30		0			0			0	
4	0			建築デザイン史	欧米の大学に留学経験があり、建築設計事務所で建築 意匠に携わっている教員が、その見識や経験を活かした 建築史の講義をする。建築設計上、意匠の占める要素は 非常に大きいといえる。日本・西洋建築史で各時代背景 とともに、国ごとの政治・経済・宗教・気候風土・生活 様式等の違いと、建築技術や材料の変化の過程を学ぶこ とで、建築の創造の原点にあるそれぞれの価値観を習得 する。	通	30		0			0			0	
5	0			構造力学 I	カ学の概念、力のつりあい、力とモーメント、断面の性質などの基本的事項の習熟に重点を置き、建築物などにどのような力がかかっているのかを学習する。具体的には、荷重と反力、静定ラーメン、トラス構造、不静定構造に等について教科書に沿って解説し、基礎的な問題での演習を交えることで理解を深める。	1	30		0			0			0	
6	0			一般構造	現役建築士が、監理業務において担当した実例や現場での経験談を交えながら、3つの主要な構造(木造・鉄筋コンクリート造・鉄骨造)の概要や構成、材料の特徴・特性等について講義する。		30		0	Δ		0			0	0

		1		
7	0	建築材料学	建築には長い歴史があり、いろいろな用途があり、様々な取り決めがある。その建築がどういう歴史をたどって発展してきたのか、また材料にはどんな特徴があるのか、どう使用されるのか、さらに環境問題など、人々の生活の身近にある材料の知識を建築設計、コーディネートの実務経験から解説し施工の面からも理解を深める。	0
8	0	施工I	現場監督として勤務経験を有する教員が、建築工事着工前から完成に至るまでの工程全般に関して、基礎的知識や概要を解説する。具体的には、施工計画の工程及び計画図の理解や、施工管理で考慮すべき材料管理や安全管理の重要事項を講義。さらに、各工事ごとに応工要点や規定の詳細を図式やイラスト・写真を用いて理解を深める。また、契約や仕様書の概要も解説し、建築工事全体の流れを講義する。	0
9	0	CAD演習A	建築設計業務においてCAD製図に携わった経験を持つ教 員が、コンピュータの基本操作から、2次元汎用CAD (jwcad)を利用した実務的な建築製図に必要な知識や 技術を指導する。	
10	0	パースペクティ ブ演習	本講義は建築設計の分野では立体図形の把握と表現は非常に重要な基礎能力である。この演習では、各種投影図 1 法についての講義と演習課題により透視図の制作方法を 後 6 45 6 6 6 6 6 6 6 6 6 6 6 6 6 6 6 6 6	
11	0	建築造形演習	造形に関わる基本的な考え方や工程、表現技法についての演習を行う。着眼、発想を元にしたコンセプトワークにはじまり、エスキス、図面化から造形に至るプロセスを通じて、思考と美的造形の表現力を深める。	0
12	0	色彩学	色彩についての基礎概念を理解し、色がどのような影響を与えるのか、その心理的な役割や効果、調和のとれた配色技法を修得する。また建築やインテリアだけに留ましらず、ファッションやプロダクト、ビジュアルデザインやディスプレイデザインなど様々な分野での基本的な配色技法を修得する。	
13	0	色彩学演習	色彩学で修得した配色技法等を実践的な課題制作を通し体験的に学ぶ。課題としてはインテリアパースやエクステリア、建築外観パース等に色彩計画をするなど、現場で必要とされる色彩についての知識や配色技法、また色彩感覚を養うものとする。	
14	0	グラフィック演 習	広告・看板等のグラフィックデザインの実務経験のある 講師により、DTP (デスクトップパブリッシング) ソフト であるAdobe Illustrator・Photoshopにて実践的な基本 操作を学び、作品集のまとめや最終課題である卒業制作 でのプレゼン用ポードのレイアウトテクニックを修得し ます。	

15	0	デッサン	実技デッサンを通して 正しく物体を認識し正しく描き写すことは非常に重要な基礎能力である。更にアドバンスして構成・造形・応用デッッサンを習得することにより、単なるデッサンから「表現力」へと導くことである。	0
16	0	コーディネート 演習 I	住宅メーカーでコーディネーターとして勤務経験を有する教員が、インテリアコーディネートの基礎を解説しながらコーディネートボード作成の実習を指導する。具体的には、インテリア構成要素の分析方法を学習し、実習として空間イメージボード・抽象イメージボード・外観イメージボードの作成を行う。最後に、自室空間のリフォーム提案の課題を通し、空間寸法の読み取り方や平面図作成の基本修得、イメージを他者に伝える為のボード作成方法を学習する。	
17	0	リフォーム概論	近年、建築物の老朽化やライフスタイルの変化に応じて、既存住宅のリフォームの需要が増えている。この授業では、リフォーム計画にあたっての必要な知識やノウハウ、関連する法規・構造を学ぶ。また多様な要望に応じたプランニング事例をみて、建築物をニーズに合ったものとして変化させる方法についての理解を深める。	
18	0	社会研究 I	働くことの意義、業界研究、自己分析を経て自己の社会的確立を目的とし、進路決定の基本となる考え方と就職前前 30 ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	
19	0	総合デザイン論	多岐に渡るデザイン分野の各専門知識や技術を、各専門 分野の講師陣からオムニバス形式により具体的実例を専 門家の考え方や手法を理解する。	0
20	0	ビジネスマナー	百貨店において、接客サービスに従事し、接遇指導の実績のある教員が、社会人としての基礎力を指導する。第一印象から身だしなみ、正しい言葉遣いから、「話す」「聞く」等の表現を実践的に身に付け、公的な場面での好感のもてるマナーやコミュニケーション力を修得する。	0
21	0	住宅計画論	住宅設計業務に携わった経験を持つ教員が、建築計画 I で履修した基本的な居住空間の計画を踏まえ、生活をより豊かにするために多様化する計画の手法や寸法・構造について詳説する。住まいの歴史やバリアフリーへの対応の仕方、建築基準法の規定や建築にかかわる費用などについても体系的に解説・指導する。	
22	0	福祉住環境計画	超高齢社会の日本では、福祉住環境整備の需要はますます高まっている。高齢者や障害者に対して住みやすい住環境を提案するために、建築の知識に加え、介護、福祉、医療について、総合的に解説する。その人らしい暮らしの回復・実現・維持をサポートするための住環境について、様々な視点から解説し、福祉用具等の活用についても詳説する。	

23	0	建築設計A	建築設計業務の経験を持つ教員の指導により、独立住宅を設計課題とした演習を通して、「住」とは何か、何をもって「住宅」と呼ぶことが出来るのかを考察し、コンセプト立案から空間構成の検討、基本設計へと各々のフェーズを確認しながら建築設計全体の流れを学ぶ。	0	0	
24	0	建築設備 I	設備設計事務所での勤務実績がある教員が、その経験を 生かし建築設備(給排水・冷暖房・換気・電気・防災) の基本的知識の理解を目標にし、建築物における設備の 重要性を説く	0		0
25	0	建築法規	建築基準法は社会情勢の変化等に応じて改正され、複雑化している。建築及び都市の計画、構造環境の全体像を把握するために、建築及び都市に関する法規や建築手法にわたる全般について修得する。	0	0	
26	0	CAD演習B	VectorWorksを利用した2次元製図技法及び3Dモデリングの描画法を修得する。視点のシュミレーション等を通じ、体感的に立体把握をするとともに、図面表現やシュミレーションを活用したプレゼンテーションにかかる技術までを目的とする。	0	0	
27	0	生成AI活用演習	この授業では、生成AIの基礎から実践的な活用までを学びます。学生は生成AIの概念や仕組みを理解し、テキスト生成、画像生成、データ分析など、具体的な応用方法を習得します。最終的には、実際の課題に生成AIを活用して解決策を提案できるスキルを身に付けます。初心者でも理解できるよう、基礎から段階的に発展的な内容へと進みます。	0	0	
28	0	家具デザイン演習	住空間に内包されるところの構成要素(インテリア・エレメント)の計画・設計をする領域の家具デザインにおける基本的な形態や材料・構造・人間と道具・空間とのかかわり方、人間の行為行動のサポートのために生まれてきた家具を「より快適に」「楽に」「無駄なく」などの要素を人間工学などで考察し、インテリアの基礎知識を基盤とし、デザインを現実化するための製図やパースの表現方法をまなび、体に優しいデザインについて考える方法論や演習を行う。	0		0
29	0	社会研究Ⅱ	将来の職業への関心を更に深め、働く事の意義や構造について学ぶと同時に、社会におけるコミュニケーションのあり方を修得し、意欲的な人生設計への実現に向けた選択行動が取れるようになる事を目的とする。	0	0	
30	0	ビジネス概論	1、経営コンサルタントとしての実務経験のある教員が、企業や店舗において売上・利益を上げる基礎知識を身に着けるために学生に身近な各種業界における収益構造について事例を参考に教える。 2、マーケティング(販売促進)の実務経験のある教員が企業の販促活動や広告の手法など、将来、企画・提案のできるデザイナーになるために知っておくべき事項について教える。	0		0

31	0	ビジネススキル 演習	ビジネス用アプリケーションソフトを扱う力は、現代では標準スキルとして求められる。本演習では、Microsoft officeのアプリケーションであるWord、Excel、PowerPointについての基本操作について解説した後、実務において必要な応用スキルを身につけるための実践的演習を行う。	2前	30		0	0	0		
32	0	建築設計B	建築設計業務の経験を持つ教員の指導により、比較的中規模集合住宅及び公共施設について各々課題を設定し演習を行う。建築計画が実際の設計でどのような役割を持っているのか実感し、また建築が地域や環境とどうびついていかなければならないのかを考え、建築設計を行う者に必要な総合的な視野・知識・能力を養成する。	i 2前	105		0	0	0		
33	0	建築計画Ⅱ	建築計画学において策定された要点の整理を行い、与えられた課題敷地に設定された用途の建築を設計計画する演習を行う。1ターム3回で構成し、4課題(木造住居系、RC造住居系、公共建築系、商業建築系)を課す。		30	Δ	0	0	0		
34	0	建築環境工学	建築設計事務所で環境工学の観点から設計に携わっている教員が、その見識や経験を活かしての講義をする。建築設計を進める際に必要な環境工学の要素である音・光・空気・温熱・水環境とそこで生活活動する人間の関りについて基礎概念を理解する。	2 前	30	0		0		0	
35	0	構造力学Ⅱ	構造力学 I で学習した基礎的内容を踏まえ、さらに発展的な演習問題に取り組み建築物の構造計算の手順を学習する。具体的には、基礎的問題の確認を行いながら、それらを組み合わせて解かなければならない不静定構造物の応力の求め方、さらに建築物の二次設計が必要な場合に要求される必要保有水平耐力の係数の理解、塔状比を確認して建築物の転倒の検討を行う計算の流れなどを学習する。] 2	30	0		0		0	
36	0	木構造計画演習	木構造を専門とする現役建築士が、設計業務に携わった 実例プランを用いて、軸組配置の検討や接合金物選定等 の実践的な演習の指導を行う。		30		0	0		0	
37	0	積算 I	住宅メーカーで積算業務に携わった経験を持つ教員が、 建築数量積算基準に基づき、各工種ごとに材料算出方法 を講義する。概要の解説を行った後に、電卓やスケール を用いて、教科書の図面及び仕様を確認しながら部材 算を行い、基礎手順を解説。工種ごとの単位や所要数量 の違いを理解し、材料ごとに正確な拾い出しが行えるよ う講義を行う。	, 2 前	30	0	Δ	0		0	
38	0	卒業制作A	建築設計、施工及びインテリアコーディネートなど空間デザイン分野の実務経験を持つ教員により学生各自が設定されたテーマに対し、これまで習得してきた建築やインテリアなどの空間デザイン領域に関する専門的な知識や技術、感性、表現等を使い、これからの社会への問題提起・解決に向けての提案を行っていく。	2通	345		0	0	0		

39	0		卒業制作C	卒業制作A又はBで学生各自が設定した課題について、 模型製作をおこなう。	2後	30		0		0		0		
		合	計	39	科	Ш			1920	単位	ኔ (.	単位	時間])

卒業要件及び履修方法	授業期間等				
・出席率が80%以上であること ・当該年次の科目全てに合格すること 卒業要件: ・卒業制作又は卒業研究に合格すること ・当該年次の授業料等諸経費が完納されていること	1 学年の学期区分	2 期			
履修方法: 学則に定める教育課程に基づき授業科目を履修し、学修の評価により科目を修得する	1 学期の授業期間	15 週			

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について〇を付すこと。

職業実践専門課程等の基本情報について

熊本デザイン専門				日	123	長名			77 正心	所在地				
	『学校	平点	戊5年12月2	24日	校長	内藤謙一		862-0973 熊本県熊本市中央区	【大江本町2−5					
	11.17							096-364-8500						
設置者名		設」	立認可年月	日	代表	表者名	= 8	862-0976	所在地					
学校法人未来創造	造学園	平原	成22年3月	2日	理事長	吉山昌利	(住所)	熊本県熊本市中央区	【九品寺2丁目2-38					
分野		忍定課程名	2		認定学科	夕		096-362-5656]士認定年度	高度専門士認定な	主府	職業宝建	専門課程認定年度		
7J ±1°	Ī	心化体性化		建築・イ		<u>ロ</u> ザイン 科	- 7 1.]工能化牛皮	同及守门工祕化*	十戊		子		
文化·教養	I	業専門課	程		ジニアリング専攻コー		平成	22(2010)年度	-		平成	28(2016)年度		
					ス)									
学科の目的	建築・イン・	テリアデザイ	イン・家具等	の、空間デ	ザイン分野	における幅広	い知識と実践	桟に必要となる技術を を	有する人材を育成し、業	界へ送り	出すことを目	的とする。		
出れる計画を (Pa / Pa / Pa / Pa / Pa														
学科の特徴(取得 可能な資格、中退	色彩検定、	福祉住環境	竟コーディネ	ーター、リ	フォームスタ	ィイリスト、イン・	テリアコーデ	ィネーター、宅地建物耳	7月士、建築士、建築施	工管理技	5士等の取得	を目指す。		
率 等)														
修業年限	昼夜	全課程の何	修了に必要		特数又は総	講事	忘	演習	実習	実	験	実技		
12-11-12	- L		里1	立数										
2	昼間	※単位時間、 かに記入	単位いずれ	1,920	単位時間	705	単位時間	1,215 単位時間	0 単位時間	0	単位時間	0 単位時間		
年		N-1CBL/C			単位		単位	単位	単位		単位	単位		
生徒総定員	生徒到	€員(A)	留学生	数(生徒実員の	の内数)(B)	留学生割·	合(B/A)	中退率						
00.1	70							0.1						
80 人	70 ■卒業者		<u> </u>	0	人 8	0	76	3 %						
	■午未有	致(C) 望者数(D)) :		7									
	■就職者	数 (E)	:		7		Ż.							
	■地元就■就職率	職者数(F) (E/D))		100%		人							
		(E/D) に占める地	元就職者の)割合 (F/F			%							
					57%		%							
	■卒業者(こ占める就具	職者の割合	(E/C)	88%		%							
計画なるから	■進学者	数			0		人							
就職等の状況	■その他					-								
	特記なし													
	,,, 40-00													
1	(令和	6	年度卒業者	に関する名	分和 7 年5月	1日時点の情	報)							
		職先、業界	等											
			等											
	■主な就 (令和6年度	卒業生)		ウスメ ー カ・	一、家具・1	インテリア雑貨	貨販売店等							
	■主な就 (令和6年度 建築設計	卒業生) 事務所、エ	□務店、ハ'		一、家具・1	インテリア雑貨	貨販売店等							
第二老による	■主な就 (令和6年度 建築設計	卒業生)	こ務店、ハワ 等から第三	.者評価:	一、家具•1	インテリア雑貨	〔販売店等	無						
第三者による学校評価	■主な就 (令和6年度 建築設計 ■民間の ※有の場合	卒業生) 事務所、エ 評価機関等 ・、例えば以下	こ務店、ハワ 等から第三	.者評価:	一、家具·1		〔販売店等		新結果を掲載した					
	■主な就 (令和6年度 建築設計 ■民間の ※有の場合	卒業生) 事務所、エ 評価機関等	こ務店、ハワ 等から第三	.者評価:	一、家具・1	インテリア雑貨 受審年月:	貨販売店等	言平化	m結果を掲載した −ムページURL					
	■主な就 (令和6年度 建築設計 ■民間の ※有の場合	卒業生) 事務所、エ 評価機関等 ・、例えば以下	こ務店、ハワ 等から第三	.者評価:	一、家具・1		貨販売店等	言平化						
学校評価 当該学科の ホームページ	■主な就 (令和6年度 建築設計 ■民間の ※有の場合	卒業生) 事務所、エ 評価機関等 ・、例えば以下	こ務店、ハワ 等から第三 下について任	者評価: 意記載	一、家具・1		复販売店等	言平化						
学校評価 当該学科の	■主な就 (令和6年度 建築設計 ■民間の ※有の場合	卒業生) 事務所、エ 評価機関等 、例えば以て 評価団体:	こ務店、ハワ 等から第三 下について任	者評価: 意記載	一、家具・1		貞販売店等	言平化						
学校評価 当該学科の ホームページ	■主な就 (令和6年度 建築設計 ■民間の ※有の場合	卒業生) 事務所、工 評価機関等 、例えば以 評価団体: www.kumam	三務店、ハワ 等から第三 FICOLUTE noto-design る算定)	者評価: 意記載	一、家具・1		貨販売店等	言平化						
学校評価 当該学科の ホームページ	■主な就 (令和6年度 建築設計 ■民間の ※有の場合	卒業生) 事務所、エ 評価機関等 、例えば以下 評価団体: ww.kumam	三務店、ハワ 等から第三 FICOLUTE noto-design る算定)	者評価: 意記載	一、家具・1		貨販売店等	言平化		1, 920	単位時間			
学校評価 当該学科の ホームページ	■主な就 (令和6年度 建築設計 ■民間の ※有の場合	卒業生) 事務所、工 評価機関等 、例えば以 評価団体: www.kumam	三務店、ハr 等から第三 FICOLVT d noto-design る算定)	者評価: 意記載 n.ac.jp				言平化			単位時間単位時間			
学校評価 当該学科の ホームページ	■主な就 (令和6年度 建築設計 ■民間の ※有の場合	卒業生) 事務所、工 評価機関等 、例えば以 評価団体: www.kumam	一務店、ハr 等から第三 FICOLVで任 oto-design る算定) 女 うち企業等	者評価: 意記載 n.ac.jp		受審年月: 習・実技の 授		言平化		0				
学校評価 当該学科の ホームページ	■主な就 (令和6年度 建築設計 ■民間の ※有の場合	卒業生) 事務所、工 評価機関等 、例えば以 評価団体: www.kumam	一務店、ハr 等から第三 FICOLVで任 oto-design る算定) 女 うち企業等	者評価: 意記載 n.ac.jp	た実験・実	受審年月: 習・実技の 授		言平化		0	単位時間			
学校評価 当該学科の ホームページ	■主な就 (令和6年度 建築設計 ■民間の ※有の場合	卒業生) 事務所、工 評価機関等 、例えば以 評価団体: www.kumam	一務店、ハワ 等から第三 Fについて日 oto-design る算定) 女 うち企業等 うち企業等	者評価: 意記載 n.ac.jp を連携し 受業時数	た実験・実	受審年月: 習・実技の授 業時数	業時数	評価水一		0 0 30	単位時間 単位時間			
学校評価 当該学科の ホームページ	■主な就 (令和6年度 建築設計 ■民間の ※有の場合	卒業生) 事務所、工 評価機関等 、例えば以 評価団体: www.kumam	一務店、ハワ 等から第三 Fについて日 oto-design る算定) 女 うち企業等 うち企業等	者評価: 意記載 n.ac.jp 等と連携し 要業時数 うち企業等	た実験・実	受審年月: 習・実技の授業時数 た必修の実験	業時数・実習・実技	評価水一		0 0 30 0	単位時間			
学校評価 当該学科の ホームページ URL	■主な就 (令和6年度 建築設計 ■民間の ※有の場合	卒業生) 事務所、工 評価機関等 、例えば以 評価団体: www.kumam	一務店、ハバ 等から第三 Fricolvでd oto-design る算定) な うち企業等 うち企業等 うち必修材	者評価: 意記載 n.ac.jp を連携し 受業時数 うち企業等 うち企業等	た実験・実 た演習の授 春と連携しれ	受審年月: 習・実技の授業時数 た必修の実験 た必修の演習(業時数 ・実習・実打 の授業時数	評価水一		0 0 30 0	単位時間 単位時間 単位時間 単位時間 単位時間			
学校評価 当該学科の ホームページ URL 企業等と連携した	■主な就 (令和6年度 建築設計 ■民間の ※有の場合	卒業生) 事務所、工 評価機関等 、例えば以 評価団体: www.kumam	一務店、ハバ 等から第三 Fricolvでd oto-design る算定) な うち企業等 うち企業等 うち必修材	者評価: 意記載 n.ac.jp を連携し 受業時数 うち企業等 うち企業等	た実験・実 た演習の授 春と連携しれ	受審年月: 習・実技の授業時数 た必修の実験	業時数 ・実習・実打 の授業時数	評価水一		0 0 30 0	単位時間 単位時間 単位時間 単位時間			
学校評価 当該学科の ホームページ URL	■主な就 (令和6年度 建築設計 ■民間場合 ※有の場合 (A:単位	卒業生) 事務所、工 評価機関等、例えば以下 評価団体: www.kumam む時間による 総授業時要	一務店、ハバ 等から第三 ioto-design のすったので る算定) な うち企業等 うち企業等 (うち企業	者評価: 意記載 n.ac.jp を連携し 受業時数 うち企業等 うち企業等	た実験・実 た演習の授 春と連携しれ	受審年月: 習・実技の授業時数 た必修の実験 た必修の演習(業時数 ・実習・実打 の授業時数	評価水一		0 0 30 0	単位時間 単位時間 単位時間 単位時間 単位時間			
学校評価 当該学科の ホームページ URL 企業等と連携した 実習等の実施状況	■主な就 (令和6年度 建築設計 ■民間場合 ※有の場合 (A:単位	卒業生) 事務所、工 評価機関等、例えば以下 評価団体: www.kumam 立時間による 総授業時妻	一務店、ハバ 等から第三 ioto-design のすったので る算定) な うち企業等 うち企業等 (うち企業	者評価: 意記載 n.ac.jp を連携し 受業時数 うち企業等 うち企業等	た実験・実 た演習の授 春と連携しれ	受審年月: 習・実技の授業時数 た必修の実験 た必修の演習(業時数 ・実習・実打 の授業時数	評価水一		0 0 30 0 0	単位時間 単位時間 単位時間 単位時間 単位時間			
学校評価 当該学科の ホームページ URL 企業等と連携した 実習等の実施状況 (A、Bいずれか	■主な就 (令和6年度 建築設計 ■民間場合 ※有の場合 (A:単位	卒業生) 事務所、工 評価機関等、例えば以 、例えば以 ・ www.kumam 立時間による 総授業時要 な数による3 総単位数	一務店、ハバ 等から第三 ioto-design のす うち企業等 うち企業等 (うち企ま 算定)	者評価: 意記載 n.ac.jp を連携し 受業時数 うち企業等 うち企業等 条等と連携	た実験・実 た演習の授 等と連携した したインタ	受審年月: 習・実技の授業時数 た必修の実験 た必修の演習(業時数 ・実習・実打 の授業時数 授業時数)	評価水一		0 0 30 0 0 0	単位時間単位時間単位時間単位時間単位時間単位時間単位時間単位時間単位時間単位時間			
学校評価 当該学科の ホームページ URL 企業等と連携した 実習等の実施状況 (A、Bいずれか	■主な就 (令和6年度 建築設計 ■民間場合 ※有の場合 (A:単位	卒業生) 事務所、工 評価機関等、例えば以 、例えば以 ・ www.kumam 立時間による 総授業時要 な数による3 総単位数	一務店、ハバ 等から第三 ioto-design のす うち企業等 うち企業等 (うち企ま 算定)	者評価: 意記載 n.ac.jp を連携し 受業時数 うち企業等 うち企業等 条等と連携	た実験・実 た演習の授 等と連携した したインタ	受審年月: 習・実技の授業時数 た必修の実験 た必修の演習(業時数 ・実習・実打 の授業時数 授業時数)	評価水一		0 0 30 0 0 0	単位時間単位時間単位時間単位時間単位時間単位時間単位時間単位時間単位時間単位時間			
学校評価 当該学科の ホームページ URL 企業等と連携した 実習等の実施状況 (A、Bいずれか	■主な就 (令和6年度 建築設計 ■民間場合 ※有の場合 (A:単位	卒業生) 事務所、工 評価機関等、例えば以 、例えば以 ・ www.kumam 立時間による 総授業時要 な数による3 総単位数	一務店、ハバ 等から第三 ioto-design る算定) うち企業等 うち必修材 (うち企ま	者評価: 意記載 nac.jp を連携し 受業時数 うち企業等 うち企業等 と連携し	た実験・実 た演習の授 等と連携した したインタ	受審年月: 習・実技の授業時数 た必修の実験 た必修の演習 ーンシップの	業時数 ・実習・実打 の授業時数 授業時数)	評価水一		0 0 30 0 0 0	単位時間単位時間単位時間単位時間単位時間単位時間単位時間単位時間単位時間単位時間			
学校評価 当該学科の ホームページ URL 企業等と連携した 実習等の実施状況 (A、Bいずれか	■主な就 (令和6年度 建築設計 ■民間場合 ※有の場合 (A:単位	卒業生) 事務所、工 評価機関等、例えば以 、例えば以 ・ www.kumam 立時間による 総授業時要 な数による3 総単位数	一務店、ハバ 等から第三 ioto-design る算定) うち企業等 うち必修材 (うち企ま	者評価: 意記載 nac.jp を連携し うち企業等 うち企業等 く等と連携し うち企業等と連携し	た実験・実 た演習の授 等と連携した したインタ た実験・実	受審年月: 習・実技の授業時数 た必修の実験 た必修の演習 ーンシップの	業時数 ・実習・実打 の授業時数 授業時数)	評価水一		0 0 30 0 0 0	単位時間単位時間単位時間単位時間単位時間単位時間単位時間単位時間単位時間単位時間			
学校評価 当該学科の ホームページ URL 企業等と連携した 実習等の実施状況 (A、Bいずれか	■主な就 (令和6年度 建築設計 ■民間場合 ※有の場合 (A:単位	卒業生) 事務所、工 評価機関等、例えば以 、例えば以 ・ www.kumam 立時間による 総授業時要 な数による3 総単位数	一務店、ハバ 等から第三 ioto-design のすったのかで任 のすったのかで任 のすったのかで任 うち企業等 うち企業等 うち企企業等 うち企企業等 うち企企業等 うち企企業等 うち企企業等	者評価: 意記載 nac.jp を連携し うち企業等 うち企業等 を連携し うち企業等 と連携し	た実験・実 た演習の授 存と連携したインタ た実験・実 た演習の単	受審年月: 習・実技の授業時数 た必修の実験 た必修の演習 ーンシップの	業時数 ・実習・実打 の授業時数 授業時数 位数	評価 ホー		0 0 30 0 0 0	単位時間 単位時間 単位時間 単位時間 単位時間 単位時間 単位時間 単位時間			
学校評価 当該学科の ホームページ URL 企業等と連携した 実習等の実施状況 (A、Bいずれか	■主な就 (令和6年度 建築設計 ■民間場合 ※有の場合 (A:単位	卒業生) 事務所、工 評価機関等、例えば以 、例えば以 ・ www.kumam 立時間による 総授業時要 な数による3 総単位数	一務店、ハバ 等から第三 ioto-design のすったのかで任 のすったのかで任 のすったのかで任 うち企業等 うち企業等 うち企企業等 うち企企業等 うち企企業等 うち企企業等 うち企企業等	者評価: 意記載 nac.jp を連携し 受業時数 うち企業等 を連携し うち企業等 を連携し うち企業等 を連携し うち企業等	た実験・実 た演習の授 序と連携した したインタ た実験・実 た演習の単	受審年月: 習・実技の授業時数 た必修の実験 た必修の演習 ーンシップの 習・実技の単位数	業時数 ・実習・実打 力授業時数) 授業時数) 位数 ・実習・実打	評価 ホー		0 0 30 0 0 0 0 0 0	単位時間 単位時間 単位時間 単位時間 単位時間 単位時間 単位時間 単位 単位 単位 単位 単位 単位			
学校評価 当該学科の ホームページ URL 企業等と連携した 実習等の実施状況 (A、Bいずれか	■主な就 (令和6年度 建築設計 ■民間場合 ※有の場合 (A:単位	卒業生) 事務所、工 評価機関等、例えば以 、例えば以 ・ www.kumam 立時間による 総授業時要 な数による3 総単位数	一務店、ハバ 等から第三 ioto-design oto-design るな うち企業等 うち必修打 (うち企企業 第定) うち企企業等 第章 うち企企業等 第章 うち企企業等 第4 第4 第5 第5 第5 第5 第6 第6 第6 第6 第6 第6 第6 第6 第6 第6	者評価: 意記載 n.ac.jp を連携し うち企業等 うち企業等 を連携し うち企業等 を連携し うち企業等 うち企業等	た実験・実 た演習の授 存と連携したインタ た実験・実 た演習の単 た実験・実	受審年月: 習・実技の授業時数 た必修の実験 た必修の演習 ーンシップの 習・実技の単位数 た必修の実験 た必修の実験 た必修の実験	業時数 ・実習・実打 力授業時数) 位数 ・実習・実打 の位数	評価 ホー		0 0 30 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	単位時間 単位時間 単位時間 単位時間 単位時間 単位時間 単位 単位 単位 単位 単位 単位 単位 単位 単位 単位 単位 単位 単位			
学校評価 当該学科の ホームページ URL 企業等と連携した 実習等の実施状況 (A、Bいずれか	■主な就 (令和6年度 建築設計 ■民間場合 ※有の場合 (A:単位	卒業生) 事務所、工 評価機関等、例えば以 、例えば以 ・ www.kumam 立時間による 総授業時要 な数による3 総単位数	一務店、ハバ 等から第三 ioto-design oto-design るな うち企業等 うち必修打 (うち企企業 第定) うち企企業等 第章 うち企企業等 第章 うち企企業等 第4 第4 第5 第5 第5 第5 第6 第6 第6 第6 第6 第6 第6 第6 第6 第6	者評価: 意記載 n.ac.jp を連携し うち企業等 うち企業等 を連携し うち企業等 を連携し うち企業等 うち企業等	た実験・実 た演習の授 存と連携したインタ た実験・実 た演習の単 た実験・実	受審年月: 習・実技の授業時数 た必修の実験 た必修の演習 ーンシップの 習・実技の単位数	業時数 ・実習・実打 力授業時数) 位数 ・実習・実打 の位数	評価 ホー		0 0 30 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	単位時間 単位時間 単位時間 単位時間 単位時間 単位時間 単位時間 単位 単位 単位 単位 単位 単位			
学校評価 当該学科の ホームページ URL 企業等と連携した 実習等の実施状況 (A、Bいずれか	■主な就 (令和6年度 建築設計 ■民間場合 ※有の場合 (A:単位	卒業生) 事務所、工 評価機関等、例えば以 、例えば以 ・ www.kumam 立時間による 総授業時要 な数による3 総単位数	一務店、ハバ 等から第三 ioto-design oto-design るな うち企業等 うち必修打 (うち企企業 第定) うち企企業等 第章 うち企企業等 第章 うち企企業等 第4 第4 第5 第5 第5 第5 第6 第6 第6 第6 第6 第6 第6 第6 第6 第6	者評価: 意記載 n.ac.jp を連携し うち企業等 うち企業等 を連携し うち企業等 を連携し うち企業等 うち企業等	た実験・実 た演習の授 存と連携したインタ た実験・実 た演習の単 た実験・実	受審年月: 習・実技の授業時数 た必修の実験 た必修の演習 ーンシップの 習・実技の単位数 た必修の実験 た必修の実験 た必修の実験	業時数 ・実習・実打 力授業時数) 位数 ・実習・実打 の位数	評価 ホー		0 0 30 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	単位時間 単位時間 単位時間 単位時間 単位時間 単位時間 単位 単位 単位 単位 単位 単位 単位 単位 単位 単位 単位 単位 単位			
学校評価 当該学科の ホームページ URL 企業等と連携した 実習等の実施状況 (A、Bいずれか	■主な就 (令和6年度 建築設計 ■民間場合 ※有の場合 (A:単位	卒業生) 事務所、工 評価機関領 、例えば以 、 www.kumam 立時間による 総授業時委 立数による 3 総単位数	一務店、ハバ 等から第三日 oto-design のすった。 うち企業等 うちを必修打 (うち企業等 うちを必修打 (うちを企業等 (うちを企業等 (うちを企業等 (うちを企業等 (うちを企業等 (うちを企業等 (うちを企業等 (うちを企業等 (うちを企業等 (うちを企業等 (うちを企業等 (うちを企業等 (うちを企業等 (うちを企業等 (うちを企業等 (うちを企業等 (うちを企業等 (うちを企業等 () () () () () () () () () () () () () (者評価: ac.jp を連携し すと連携し すらな企業等 を連携し するな業等 を連携し するな企業等 なるな業等 するな企業 するな企業 するな企業 ものなる。	た実験・実 た演習の授 等と連携したインタ た実験・実 で た実験・実 で た実験・実 で を は に た は に た に な は に た に な は に た に は に た に は に に は に は に は に は に は に は に は に は に は に は に に は に は に は に は に は に は に は に に は に に は に は に に は に に に に に に に に に に に に に	受審年月: 習・実技の授業時数 た必修の実験でいずの 習・実技の単位数 た必修の実験でしからいます。	業時数 ・実習・実打 力授業時数) 位数 ・実習・実打 の位数	評価 ホー		0 0 30 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	単位時間 単位時間 単位時間 単位時間 単位時間 単位時間 単位 単位 単位 単位 単位 単位 単位 単位 単位 単位 単位 単位 単位			
学校評価 当該学科の ホームページ URL 企業等と連携した 実習等の実施状況 (A、Bいずれか	■主な就 (令和6年度 建築設計 ■民間場合 ※有の場合 (A:単位	卒業生) 事務所、工 評価機関以 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	一務店、ハバ 等から第三代 ioto-design のすり のすり のすり のすり のすり のすり のすり のすり	者評価: 意記載 n.ac.jp 幸と連携し 要要	た実験・実 た演習の授 序と連携した したインタ・ た実験習の単 た実験習の単 た大演習の単 したインタ・ た大演習の したインタ・ したインタ・ したインタ・ したインタ・ したインタ・ した大演習の した人で表 したインタ・ したんである。	受審年月: 習・実技の授業時数 た必修の実験 た必修の演習 ーンシップの 習・実技の単位数 た必修の実験 た必修の実験 た必修の実験	業時数 ・実習・実打 の授業時数) 位数 ・実習・実打 の単位数)	をの授業時数	-AベージURL	0 0 30 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	単位時間 単位時間 単位時間 単位時間 単位 単位 単位 単位 単位 単位 単位			
学校評価 当該学科の ホームページ URL 企業等と連携した 実習等の実施状況 (A、Bいずれか	■主な就 (令和6年度 建築設計 ●民間場合 ※有の場合 (A:単位	卒業生)、工学業等 事評例価機は以下 一個機関以下 一個機関以下 一個機関以下 一個機関以下 一般機関以下 一般機関以下 一般機関以下 一般機関以下 一般機関以下 一般機関以下 一般機関以下 一般機関以下 一般機関以下 一般機関以下 一般機関以下 一般機関以下 一般を担め 一般を担め の 一般を した の の の の の の の の の の の の の の の の の の	一務店、ハバ 等から第三任 oto-design oto-design の数 うち企業業 等が うち企必修 うちを必修 うちを必修 でするな関係 でするな でする でする でする でする でする でする でする でする	者評価: ac.jp	た実験・実 た演習の授 序と連携したインタ・ た実験・実 をと連携した たた演習の単 たた演習の単 たた演習の単 たたさ者で したインタ・ たた者である。	受審年月: 晋・実技の授業時数 た必修の実験でいる。 た必修の実験である。 では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、で	業時数 ・実習・実打 の授業時数) 位数 ・実習・実打 の単位数)	評価 ホー	-AベージURL	0 0 30 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	単位時間 単位時間 単位時間 単位時間 単位時間 単位時間 単位 単位 単位 単位 単位 単位 単位 単位 単位 単位 単位 単位 単位			
学校評価 当該学科の ホームページ URL 企業等と連携した 実習等の実施状か (A、Bいずれか	■主な就 (令和6年度 建築設計 ●民間場合 ※有の場合 (A:単位	卒業生)、工学業等 事評例価機は以下 一個機関以下 一個機関以下 一個機関以下 一個機関以下 一般機関以下 一般機関以下 一般機関以下 一般機関以下 一般機関以下 一般機関以下 一般機関以下 一般機関以下 一般機関以下 一般機関以下 一般機関以下 一般機関以下 一般を担め 一般を担め の 一般を した の の の の の の の の の の の の の の の の の の	一務店、ハバ	者評価: ac.jp	た実験・実 た演習の授 序と連携したインタ・ た実験・実 をと連携した たた演習の単 たた演習の単 たた演習の単 たたさ者で したインタ・ たた者である。	受審年月: 習・実技の授業時数 た必修の演習の 一ンシップの 習・実技の単位数 た必修の演習の では数 た必修の演習の にお該い事	業時数 ・実習・実打 の授業時数) 位数 ・実習・実打 の単位数)	をの授業時数	-AベージURL	0 0 30 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	単位時間 単位時間 単位時間 単位時間 単位 単位 単位 単位 単位 単位 単位			
学校評価 当該学科の ホームページ URL 企業等と連携した 実習等の実施状か (A、Bいずれか	■主な就 (令和6年度 建築設計 ●民間場合 ※有の場合 (A:単位	卒業生)、工 率事評、例 が が が が が が が が が が が が が	一務店、ハバ等からのでは、「「「「「「「」」」」。 「「「」」」 「「」」 「「」」 「「」」 「「」」	者意記載 n.ac.jp 年と連携数 業等 うう等 を企連携数 業等 ううちとと 連携数 業等 を企連進数 企企連携 を企企連携数 業等 を企企連携 数 業等 を企企連携 数 業等 を企び業 を企び業 の方ちたと	た実験・実 た演習の授 序と連携したインタ・ た実験・実 をと連携した たた演習の単 たた演習の単 たた演習の単 たたさ者で したインタ・ たた者である。	受審年月: 習・実技の授業時数 た必修の演習の 一ンシップの 習・実技の単位数 た必修の演習の では数 た必修の演習の にお該い事	業時数 ・実習・実打 の授業時数) を実習・実力 を表現 の単位数 ・実習・実力 ・実際を学れ	をの授業時数	- ムベージURL (第1号)	0 0 30 0 0 0 0 0 0 0 0 0	単位時間 単位時間 単位時間 単位時間 単位 単位 単単位 単単位 単単位 単単位 人			
学校評価 当該学科のホームページ URL 企業等と連携した 実習等の実施状か に記入)	■主な就 (令和6年度 建築設計 ●民間場合 ※有の場合 (A:単位	卒業生)、工 平事 評例 価値 は に ・	一務店、ハバー 等下について日 のなって日 のなったのでは、 のなったのでは、 のなったのでは、 のないでは	者言記載 n.ac.jp p と連携と連携を変奏を変更を変更を変更を変更を変更を変更を変更を変更を変更を変更を変更を変更を変更を	た実験・実 た演習の授 序と連携したインタ・ た実験・実 をと連携した たた演習の単 たた演習の単 たた演習の単 たたさ者で したインタ・ たた者である。	受審年月: 習・実技の授業時数 た必修の演習の 一ンシップの 習・実技の単位数 た必修の演習の では数 た必修の演習の にお該い事	業時数 ・実習・実打 か授業時数) 位数 ・実習・実力 位数 ・実質な数 (専修学科 (専修学科	評価 ホー なの授業時数 なの単位数 交設置基準第41条第1項 交設置基準第41条第1項	- ムベージURL 第1号 第2号	0 0 30 0 0 0 0 0 0 0 0	単位時間 単位時間 単位時間 単位時間 単位時間 単位時間 単位 単位 単単位 単単位 単単位 上半単位 人人			
学校評価 当該学科の ホームページ URL 企業等と連携した 実習へ、Bいずれか に記入)	■主な就 (令和6年度 建築設計 ●民間場合 ※有の場合 (A:単位	卒業等所、工等等等所、関以では、 ・ は な 数 に よ な 数 に よ な 数 に よ な 数 に よ な 数 に よ な 数 に よ な 数 に よ な 数 に な 数 で 修担の年 の で で 門して で 学 さ ず 等 う で で 等 う で で 等 う で で 等 う で で 等 う で で 等 う で で 等 う で で 等 う で で 等 う で で 等 う で で 等 う で で 等 う で で ま で 等 う で で ま で 等 う で で 等 う で で 等 う で で 等 う で で 等 う で で ま で 等 う で で ま で 等 う で で す で 等 う で で す で 等 う で で す で 等 う で で す で 等 う で で す で 等 う で で す で 等 う で で す で す で 等 う で で す で す で す で す で す で す で す で す で す	一務店、ハバー 等下について自 のなっちのいでは のなっちのでは のなっちのでは のなっちのでは のなっちのでは のないでは のなでは のなでは のなでは のなでは のなでは のなでは のなでは のなでは のなで のなでは のなでは のなで のなでは のなで のなで のなでは のなでは のなで のなで のなで	者言記載 n.ac.jp Peと連携と連携を企連携を企連携を企連携を企連携を企連携を企連携を企連携を企連携を企連進度を企連接を企連接を企連接を企連接を企連接を企連接には、 Percent Apple 2015	た実験・実 をと連携した をと連携したインタ・ た大演習のを をと連携した た大演習の に たた演習の に たたで したインタ・ たたで したインタ・ たたで したインタ・ たたで したインタ・ たたで したインタ・ したその に り したで したで したで したで したで したで したで したで したで したで	受審年月: 習・実技の授業時数 た必修の演習の 一ンシップの 習・実技の単位数 た必修の演習の では数 た必修の演習の にお該い事	業時数 ・実習・実行 か授業時数) 位数 ・実習・実行 の受験を である。 ・実習・実行 の数 ・実質を の単位数 ・実質を ・実施を ・実施を ・実施を ・実施を ・実施を ・実施を ・実施を ・変換を ・変換を ・変換を ・変換を ・変換を ・変換を ・変換を ・変換	設の授業時数 なの授業時数 をの単位数 を設置基準第41条第1項 を設置基準第41条第1項	- ムベージURL (第1号) (第2号) (第3号)	0 0 30 0 0 0 0 0 0 0 0 0	単位時間 単位時間 単位時間 単位時間 単位 単位 単位 単位 単位 単位 単位 単位 上 単位 上 上 し 上 上 し 上 上 上 上 上 上 上 上 上 上 上 上 上			
学校評価 当該学科のホームページ URL 企業等と連携した 実習等の実施状か に記入)	■主な就 (令和6年度 建築設計 ●民間場合 ※有の場合 (A:単位	卒業等所、工等等等所、関以では、 ・ は な 数 に よ な 数 に よ な 数 に よ な 数 に よ な 数 に よ な 数 に よ な 数 に よ な 数 に な 数 で 修担の年 の で で 門して で 学 さ ず 等 う で で 等 う で で 等 う で で 等 う で で 等 う で で 等 う で で 等 う で で 等 う で で 等 う で で 等 う で で 等 う で で 等 う で で ま で 等 う で で ま で 等 う で で 等 う で で 等 う で で 等 う で で 等 う で で ま で 等 う で で ま で 等 う で で す で 等 う で で す で 等 う で で す で 等 う で で す で 等 う で で す で 等 う で で す で 等 う で で す で す で 等 う で で す で す で す で す で す で す で す で す で す	一務店、ハバー 等下について日 のなって日 のなったのでは、 のなったのでは、 のなったのでは、 のないでは	者言記載 n.ac.jp Peと連携と連携を企連携を企連携を企連携を企連携を企連携を企連携を企連携を企連携を企連進度を企連接を企連接を企連接を企連接を企連接を企連接には、 Percent Apple 2015	た実験・実 をと連携した をと連携したインタ・ た大演習のを をと連携した た大演習の に たた演習の に たたで したインタ・ たたで したインタ・ たたで したインタ・ たたで したインタ・ たたで したインタ・ したその に り したで したで したで したで したで したで したで したで したで したで	受審年月: 習・実技の授業時数 た必修の演習の 一ンシップの 習・実技の単位数 た必修の演習の では数 た必修の演習の にお該い事	業時数 ・実習・実行 か授業時数) 位数 ・実習・実行 の受験を である。 ・実習・実行 の数 ・実質を の単位数 ・実質を ・実施を ・実施を ・実施を ・実施を ・実施を ・実施を ・実施を ・変換を ・変換を ・変換を ・変換を ・変換を ・変換を ・変換を ・変換	評価 ホー なの授業時数 なの単位数 交設置基準第41条第1項 交設置基準第41条第1項	- ムベージURL (第1号) (第2号) (第3号)	0 0 30 0 0 0 0 0 0 0 0 0	単位時間 単位時間 単位時間 単位時間 単位時間 単位時間 単位 単位 単単位 単単位 単単位 上半単位 人人			
学校評価 当該学科の ホームページ URL 企業習等ののに対した況 に記入) 企業である。に記入)	■主な就 (令和6年度 建築設計 ●民間場合 ※有の場合 (A:単位	卒業等所、工等等等所、関以では、 ・ は な 数 に よ な 数 に よ な 数 に よ な 数 に よ な 数 に よ な 数 に よ な 数 に よ な 数 に な 数 で 修担の年 の で で 門して で 学 さ ず 等 う で で 等 う で で 等 う で で 等 う で で 等 う で で 等 う で で 等 う で で 等 う で で 等 う で で 等 う で で 等 う で で 等 う で で ま で 等 う で で ま で 等 う で で 等 う で で 等 う で で 等 う で で 等 う で で ま で 等 う で で ま で 等 う で で す で 等 う で で す で 等 う で で す で 等 う で で す で 等 う で で す で 等 う で で す で 等 う で で す で す で 等 う で で す で す で す で す で す で す で す で す で す	一務店、ハバー等下について日本のでは、「「「「「「「「」」」」」では、第三日で日本のでは、「「」」では、第三日で日本のでは、「「」」では、「「」」では、「」では、「	者言記載 n.ac.jp Peと連携と連携を企連携を企連携を企連携を企連携を企連携を企連携を企連携を企連携を企連進度を企連接を企連接を企連接を企連接を企連接を企連接には、 Percent Apple 2015	た実験・実 をと連携した をと連携したインタ・ た大演習のを をと連携した た大演習の に たた演習の に たたで したインタ・ たたで したインタ・ たたで したインタ・ たたで したインタ・ たたで したインタ・ したその に り したで したで したで したで したで したで したで したで したで したで	受審年月: 習・実技の授業時数 た必修の演習の 一ンシップの 習・実技の単位数 た必修の演習の では数 た必修の演習の にお該い事	業時数 ・実習・実行 か授業時数 位数 ・実習・実行 を	設の授業時数 なの授業時数 をの単位数 を設置基準第41条第1項 を設置基準第41条第1項	- ムベージURL 第1号) 第2号) 第3号) 第4号)	0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	単位時間 単位時間 単位時間 単位時間 単位 単位 単位 単位 単位 単位 単位 単位 上 単位 上 上 し 上 上 し 上 上 上 上 上 上 上 上 上 上 上 上 上			
学校評価 当該学科の ホームページ URL 企業習等ののに対した況 に記入) 企業である。に記入)	■主な就 (令和6年度 建築設計 ●民間場合 ※有の場合 (A:単位	卒業生)、工等事 評価機は は いまな は かまな は は かまな は は は は は は は は は は は は は は は は は は は	一務店、ハバー 等下について自 のなって自 のなって自 のなって自 のなって自 のなって自 のなって自 のなって自 のないでは、第二で自 のないでは、第二で自 のないでは、第二で自 のないでは、第二で自 のないでは、第二では、第二では、第二では、第二では、第二では、第二では、第二では、第二	者言記載 n.ac.jp Peと連携と連携を企連携を企連携を企連携を企連携を企連携を企連携を企連携を企連携を企連進度を企連接を企連接を企連接を企連接を企連接を企連接には、 Percent Apple 2015	た実験・実 をと連携した をと連携したインタ・ た大演習のを をと連携した た大演習の に たた演習の に たたで したインタ・ たたで したインタ・ たたで したインタ・ たたで したインタ・ たたで したインタ・ したその に り したで したで したで したで したで したで したで したで したで したで	受審年月: 習・実技の授業時数 た必修の演習の 一ンシップの 習・実技の単位数 た必修の演習の では数 た必修の演習の にお該い事	業時数 ・実習・実行 か授業時数 位数 ・実習・実行 を	をの授業時数 なの授業時数 なの単位数 を設置基準第41条第1項 交設置基準第41条第1項 交設置基準第41条第1項	- ムベージURL 第1号) 第2号) 第3号) 第4号)	0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	単位時間 単位時間 単位時間 単位時間 単位 単位 単位 単位 単位 単位 単位 単位 人 人 人			
学校評価 当該学科の ホームページ URL 企業習等ののに対した況 に記入) 企業である。に記入)	■主な就 (令和6年度 建築設計 ●民間場合 ※有の場合 (A:単位	卒事 評例 価税 は 体 : ・ 本来	一務店、ハバー 等下について自 のなって自 のなって自 のなって自 のなって自 のなって自 のなって自 のなって自 のないでは、第二で自 のないでは、第二で自 のないでは、第二で自 のないでは、第二で自 のないでは、第二では、第二では、第二では、第二では、第二では、第二では、第二では、第二	者言記載 n.ac.jp Peと連携と連携を企連携を企連携を企連携を企連携を企連携を企連携を企連携を企連携を企連進度を企連接を企連接を企連接を企連接を企連接を企連接には、 Percent Apple 2015	た実験・実 をと連携した をと連携したインタ・ た大演習のを をと連携した た大演習の に たた演習の に たたで したインタ・ たたで したインタ・ たたで したインタ・ たたで したインタ・ たたで したインタ・ したその に り したで したで したで したで したで したで したで したで したで したで	受審年月: 習・実技の授業時数 た必修の演習の 一ンシップの 習・実技の単位数 た必修の演習の では数 た必修の演習の にお該い事	業時数 ・実習・実行 か授業時数 位数 ・実習・実行 を	をの授業時数 なの授業時数 なの単位数 を設置基準第41条第1項 交設置基準第41条第1項 交設置基準第41条第1項	- ムベージURL 第1号) 第2号) 第3号) 第4号)	0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	単位時間 単位時間 単位時間 単位時間 単位 単位 単位 単位 単位 単位 人 人 人 人			
学校評価 当該学科の ホームページ URL 企業習等ののに対した況 に記入) 企業である。に記入)	■主な就 (令和6年度 建築設計 ●民間場合 ※有の場合 (A:単位	卒業外所	一務店、ハバー 等下について自由のなって自由のなって自由のなって自由のなって自由のなって自由のなって自由のなって自由のなって自由のなって自由のない。 第2 うちな必修子では、「第2 ちなんのないでは、「第2 ちなんのないでは、「まなんのないでは、」」」「まなんのないでは、「まなんのないでは、「まなんのないでは、「まなんのないでは、「まなんのないでは、「まなんのないでは、」」「まなんのないでは、「まなんのないでは、「まなんのないでは、」」」「まなんのないでは、「まなんのないでは、」」」「まなんのないでは、」」」「まなんのないでは、」」」「まなんのないでは、」」」「まなんのないでは、」」」「まなんのないでは、」」」「まなんのないでは、」」」「まなんのないでは、」」」「まなんのないでは、」」」「まなんのないでは、」」」「まなんのないでは、」」」「まなんのないでは、」」」「まなんのないでは、」」」「まなんのないでは、」」」「まなんのないでは、」」」「まなんのないでは、」」」「まなんのないでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これ	者意記載 n.ac.jp Fe と連携 を連携 を連携 を連携 を連携 を連携 をを連携 をを連携 をを連携 をを連携 ををできる ををできる ををできる ををできる ををできる ををできる ををできる ををできる を表する を表	た実験・実 を連携した を連携しない。 た実験の単 たた演習の様の たまります。 たと連携した たと連携した ををしたた後であた期 になる。 にな。 になる。 にな。 にな。 になる。 にな。 にな。 になる。 に。 に。 に。 に。 に。 に。 に。 に。	受審年月: 習・実技の授業時数 た必修の実験での演習の では、とを を必修のでは、とを では、とを では、と では、と では	業時数 ・実習・実打 の授業時数) 位数 ・実習・数 位数 ・実性位数) (専修学社 (専修学社 (専修学社 (専修学社	族の授業時数 なの単位数	- ムベージURL 第1号) 第2号) 第3号) 第4号)	0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	単位時間 単位時間 単位時間 単位時間 単位 単位 単位 単位 単位 単位 人 人 人 人			
学校評価 当該学科の ホームページ URL 企業習等ののに対した況 に記入) 企業である。に記入)	■主な就 (令和6年度 建築設計 ■民間場合 ※有の場合 (A:単位	卒業	一務店、ハバー 等下について自由のなって自由のなって自由のなって自由のなって自由のなって自由のなって自由のなって自由のなって自由のなって自由のない。 第2 うちな必修子では、「第2 ちなんのないでは、「第2 ちなんのないでは、「まなんのないでは、」」」「まなんのないでは、「まなんのないでは、「まなんのないでは、「まなんのないでは、「まなんのないでは、「まなんのないでは、」」「まなんのないでは、「まなんのないでは、「まなんのないでは、」」」「まなんのないでは、「まなんのないでは、」」」「まなんのないでは、」」」「まなんのないでは、」」」「まなんのないでは、」」」「まなんのないでは、」」」「まなんのないでは、」」」「まなんのないでは、」」」「まなんのないでは、」」」「まなんのないでは、」」」「まなんのないでは、」」」「まなんのないでは、」」」「まなんのないでは、」」」「まなんのないでは、」」」「まなんのないでは、」」」「まなんのないでは、」」」「まなんのないでは、」」」「まなんのないでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これ	者意記 n.ac.jp	た実験・実験・実験での授います。 大実験での授います と連携した かままま はまれる 大きな できまれる できまれる はんしょう いっぱん かいしょう はんしょう はんしょく はんしん はんしょく はんし	受審年月: 習・実技の授業時数 た必修の実験での演習の では、とを を必修のでは、とを では、とを では、と では、と では	業時数 ・実習・実打 の授業時数) 位数 ・実習・数 位数 ・実性位数) (専修学社 (専修学社 (専修学社 (専修学社	をの授業時数 なの授業時数 なの単位数 を設置基準第41条第1項 交設置基準第41条第1項 交設置基準第41条第1項	- ムベージURL 第1号) 第2号) 第3号) 第4号)	0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	単位時間 単位時間 単位時間 単位時間 単位 単位 単位 単位 単位 単位 人 人 人 人			

- 「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っているこ と。」関係
- (1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

業界における人材の専門性に関する動向、地域の産業振興の方向性、必要な実務に関する知識や技能などを十分に把握・分析したうえで、当該専 門課程の教育を施すためにふさわしいと考えられる授業科目の開設や、授業内容・方法の改善・工夫を行い、企業の要請を十分に活かし、実践的 かつ専門的な職業教育を主体的に行うために、教育課程編成委員会を設置する。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

教育課程編成委員会委員は学校法人未来創造学園職員及び企業・団体役職者等の外部委員からなるものとし、互いの視点からの意見を積極的 に交換・活用し、より良い教育課程の編成を協力して行うものと位置付ける。

教育課程編成委員会は、各学科から示されたカリキュラム等の内容や実施状況について、業界において必要となる技術や知識を有する人材を育 てる観点から十分な審議を行い、教育課程の編成や内容についての具体的な方策を講じ、意見表明を行う。その後、各学科において当該意見を反 映した授業実施案を作成し、次回の教育課程編成委員会にて報告・審議・承認を受けたのち、学校長決裁を経て次年度教育課程が決定される。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和7年10月1日現在

名 前	所 属	任期	種別
島村 徹	一般社団法人熊本県建築士事務所協会 監事	令和6年4月1日~令和8年3 月31日(2年)	1
田中 誠一	株式会社コムハウス 代表取締役	令和6年4月1日~令和8年3 月31日(2年)	3
内藤 謙一	学校法人未来創造学園 熊本デザイン専門学校 学校長	令和7年4月1日~令和8年3 月31日(1年)	_
児玉 守	学校法人未来創造学園 熊本デザイン専門学校 教務部長	令和7年4月1日~令和8年3 月31日(1年)	_
千田 浩一	学校法人未来創造学園 熊本デザイン専門学校 教務	令和7年4月1日~令和8年3 月31日(1年)	_

- ※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①~③のいずれに該当するか記載すること。 (当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「一」を記載してください。)
- - ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、
 - 地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
 - ②学会や学術機関等の有識者
 - ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員
- (4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回 (3月、8月)

(開催日時(実績))

第1回 令和6年10月3日 10:30~11:30 第2回 令和7年3月21日 14:00~15:00

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

【第1回】

・(意見)生成AIの進化は予想以上であり、実務で使っている会社や事務所も増えてきた印象がある。カリキュラム・情報収集を含め、柔軟な対応を図ってほしい。 (取組)AI関連の授業については今年度のカリキュラムは次年度採用できない可能性が高く、年度末に改めてカリキュラム更新を検討したい。また、教員をAI関連の研修に派遣し 最新の情報収集にも努める予定である。併せて、AI業界から優秀な人材を顧問として迎える計画も進めている。

(意見)業界の資格も様々あるが、授業科目と取得資格の関連をもっとはっきりしたほうが良い。学生の意欲創出につながると思う。また、授業実施時期と取得資格の試験日をリ

ンクさせる工夫もしてほしい。 (取組)授業ガイダンス時点で、取得目標資格を明示し、試験日までのステップを細かく示すこととした。また、極力試験日にむけ授業を進められるよう授業実施時期を調整した。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

空間デザインに関連する業界における実践的な技術や知識を有する人材を育てることを目的とし、授業内容について企業側講師と担当教員が十 分な検討を行ったうえで、できうる限り企業・業界の現場における実務プロセスやノウハウを重視した授業展開を行うことを基本方針とする。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

教育課程編成委員会等において出された意見を基に、事前に職業教育協定書により協定を締結した企業側講師と担当教員による綿密な打ち合わ せを行い、授業内容や学修成果の評価方法を決定する。また、演習期間中は随時情報交換を行うことで、学修効果の向上を図るとともに、演習終 了後には、企業側講師による学生の学修成果の評価を踏まえ、担当教員が成績評価を行う。

(3)目休的た浦堆の例※私日粉については伴書的な5私日について記劃

		連携企業等
1.【校内】企業等からの講	現役建築士が、監理業務において担当した実例や現場での経験がある。たがに、3つの主要な構造(大き・鉄筋コングリート	セルラハウジング

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

「学校法人未来創造学園熊本デザイン専門学校教職員研修規程」に基づき、専攻分野に係わる教員の資質(知識、技術、技能)が何かを、関連する企業や関連団体等に広く意見を伺い、効果的な指導がなされるよう研修計画を立てて実施する。また、学級運営力の向上や教育法の習得等の研修にも併せて取り組んでいく。研修機会としては、関連する企業や関連団体等から招いた講師による学内研修や、各種団体が開催する学外研修が考えられる。

(2)研修等の実績

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名: JapanHome & Building Show 2024 連携企業等: 一般社団法人日本能率協会

期間· 令和6年11月20日(水)~11月22日(金)

pg 建材やインテリア製品、構造材・部材、設備、サービスなど住宅から商業施設、まちづくりにおける建築に関する幅広い最新情報を

対象:建築・インテリア業界等

対象: 建築・不動産業界等

連携企業等: アイカ現代建築セミナー実行委員会

対象: 学校関係者等

対象: 建築・インテリア業界等

対象: 専門学校教職員等

内容知る。

研修名:

研修名: JAPAN BUILD-建築の先端技術展- 連携企業等: RX Japan株式会社

期間: 令和6年12月11日(水)~12月13日(金)

アイカ現代建築セミナー

内容 建築・建設・不動産業界の最新の製品が出展する専門展示会で、業界セミナーも開催され9コマ受講

期間: 2024年11月27日(水) 対象: 建築業界等

内容 建築文化の向上と発展を目的に、国内外の著名な建築家を講師に迎え、住宅・環境・都市空間など幅広い分野にわたるセミナー

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名: 最新生成AIトレンドについて 連携企業等:未来創造学園

期間: 令和6年7月31日(水)14時15分~16時 対象: 企業·学校関係者等

内容 AI導入の成功事例、AI活用による地域戦略、人材育成の新しい方法論

研修名: 発達障害のある生徒への具体的な支援/合理的配慮 連携企業等: 熊本市発達障がい者支援センターみなわ

期間: 令和6年8月4日(木)10時~12時

内容 合理的配慮の基本、現場で悩みがちなケースの共有、支援や環境調整等についての考え方

研修名: 大学志向が高まる中での専門学校における学生募集戦略とは 連携企業等:株式会社進研アド

期間: 令和6年9月24日(火)16時~17時 対象: 専門学校教職員等

内容 高等教育機関[大学・専門学校]の最新動向、高校現場における進路研究の最新動向

(3)研修等の計画

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名: オルガテック東京2025 SHIFT DESIGN 連携企業等: 一般社団法人日本オフィス家具協会

期間: 令和7年6月3日(火)~6月5日(木)

内容 オフィス家具やマテリアル、ICTテクノロジーなど、未来の働き方や空間づくりの最新トレンド情報を収集及び業界セミナーの受講

研修名: JapanHome & Building Show 2023 連携企業等:一般社団法人日本能率協会

期間: 令和7年11月19日(水)~11月21日(金) 対象: 建築・インテリア業界等

_{中窓} 建材やインテリア製品、構造材・部材、設備、サービスなど住宅から商業施設、まちづくりにおける建築に関する幅広い最新情報を

内容知る。

研修名: オンライン木造建築講座 連携企業等: 高知県立林業大学校

期間: 2025年7月18日(金) 対象: 建築・インテリア業界等

「鉄と小径材で薄い一枚屋根をつくる」高知県産の流通製材を用い、鉄を適材適所に併用することで軽量かつ大スパンを覆う大屋 内容 根を実現する様法について学ぶ、木材の地域利用に基づきつつ、鉄とのハイブルがによる様法的会理性と意原的法練を両立させ

内容 根を実現する構法について学ぶ。木材の地域利用に基づきつつ、鉄とのハイブリッドによる構造的合理性と意匠的洗練を両立させる試み。

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名: 専門学校における発達障害支援とは? 連携企業等: 筑波大学ダボットプロジェクト

期間: 令和7年1月16日(火)17時~19時 対象: 一般·学校教職員等

内容
専門学校における発達障害支援をテーマとし、知見、学生支援の実態、支援ツールの活用について

研修名: 未来の専修学校をつくる~教員研修と卒業生調査のヒント~ 連携企業等:株式会社三菱総合研究所

期間: 令和7年2月18日(火)16時~18時 内容 教職員とともに成長する学校づくり、教職員への支援のあり方、卒業生調査の活用など

研修名: 教育目標の達成に向けた『入学前』からの指導体制づくり 連携企業等:株式会社進研アド

期間: 令和7年8月26日(火)15時~16時 対象: 学校関係者等

内容 近年の大学・短大・専門学校進学者の学力や学習習慣、進学意識について分析

「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっ ては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1)学校関係者評価の基本方針

学校関係者評価は教職員で実施した自己評価を、企業・高等学校・保護者・卒業生等の学校関係者それぞれの視点から意見を伺い、お互いの理 解を深めるためのものとする。また、その評価の過程において、自己評価の妥当性を検証するとともに、客観性・透明性をより高め、公共性の高い 社会に寄与する学校を目指すことを基本方針とする。

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

(<u>= / () / () / () /</u>	
ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	教育理念·目標
(2)学校運営	学校運営
(3)教育活動	教育活動
(4)学修成果	学修成果
(5)学生支援	学生支援
(6)教育環境	教育環境
(7)学生の受入れ募集	学生の受入れ募集
(8)財務	財務
(9)法令等の遵守	法令等の遵守
(10)社会貢献・地域貢献	
(11)国際交流	
NICCO TO THE TOTAL THE TOTAL TO THE TOTAL THE TOTAL TO THE TOTAL THE TOTAL TO THE T	

※(10)及び(11)については任意記載

(3)学校関係者評価結果の活用状況

学生支援については概ね良い評価を受けた。学生対応は主に担任が窓口となり、当事者から十分にヒアリングし、本人の意思を確認して対応して いる。内容に応じて他分掌とも連絡を密にするよう注力しており、今までのとこと大きな問題となることはなく機能している。 教育の内部質保証については、職業実践専門課程の認定に伴い順次対応を行っている。今後、情報管理システムを導入し、一元管理を行うととも

に、管理体制を階層化し、責任の所在を明確にして管理を徹底していきたい。

(4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

名 前	所 属	任期	種別
有田 滿里子	有限会社有田 代表取締役社長	令和7年4月1日~令和9年3月 31日(2年)	企業等委員
島村 徹	一般社団法人熊本県建築士事務所協会	令和7年4月1日~令和9年3月 31日(2年)	企業等委員
田中 千秋	株式会社放送技研 代表取締役	令和7年4月1日~令和9年3月 31日(2年)	企業等委員
古家 達也	株式会社フィールドワークス 代表取締役社長	令和7年4月1日~令和9年3月 31日(2年)	企業等委員
甲斐 広美	在校生保護者	令和7年4月1日~令和8年3月 31日(1年)	保護者委員
内村 友造	同窓会会長	令和7年4月1日~令和9年3月 31日(2年)	卒業生委員

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(<u>5)学校関係者評価</u>結果の公表方法・公表時期

(ホームページ・) 広報誌等の刊行物 ・ その他(

URL: https://kumamoto-design.ac.jp/school/publishing

公表時期: 令和7年7月1日

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供して いること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

企業等の学校関係者と連携・協力を通じて、健全な学校運営と教職員の資質向上に取り組んでいくことを目的とするため、教育活動等の学校運営 状況に関する情報を提供することを基本方針とする。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

	状態に関するカイドノイン」の項目との対応
ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	ホームページ「学校案内」に掲載
(2)各学科等の教育	ホームページ「学科紹介」に掲載
(3)教職員	ホームページ「教員・職員紹介」に掲載
(4)キャリア教育・実践的職業教育	ホームページ「就職支援」に掲載
(5)様々な教育活動・教育環境	ホームページ「学校生活」に掲載
(6)学生の生活支援	ホームページ「学校生活」に掲載
(7)学生納付金・修学支援	ホームページ「入学案内」及び募集要項に掲載
(8)学校の財務	ホームページ「財務情報」に掲載
(9)学校評価	ホームページ「学校関係者評価結果」に掲載
(10)国際連携の状況	
(11)その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

(ホームペ-広報誌等の刊行物 ・ その他(

URL: https://kumamoto-design.ac.jp/school/publishing

令和7年7月1日 公表時期:

授業科目等の概要

	(]	L業	専門	引課程 建築・/	インテリアデザイン 科(建築エンジニアリ)	ング	専攻	(⊐-	-ス))						
		分類	į						授	業	方法	場	所	教	員	
	必修	必	自由選択	授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授 業 時 数	単位数	講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任		企業等との連携
1	0			設計製図演習	建築設計に先立ち、製図用具の使い方から線の描き方等の基礎技術を修得する。建築設計製図の模写課題を通じ、実際に建築設計や現場で必要とされる建築設計製図の技術及び図面の読解力を修得する。	1 通	90		Δ	0		0		0		
2	0			建築計画 I	建築設計業務に携わった経験を持つ教員が、設計を行う上で必要となる基本的な寸法や各部の要点について解説した後、生活の基盤となる住空間から各種建築物にわたる様々な建築物の特徴や計画要点について解説を行う。		30		0			0		0		
3	0			空間意匠論	大学や専門学校で建築設計を教えた経験を持ち、建築設計事務所で意匠設計に携わった教員が、その見識を経験を活かしての講義をする。デザインは唯一の解発を構成し、それが社会と対話することにより生み出される。本講義では、これまで創られてきた建築・インテリア間などを作者の考えと共に紹介し、学生に空間を構成しうる多様な価値観・概念を習得させることを目的とする。	1 通	30		0			0			0	
4	0			建築デザイン史	欧米の大学に留学経験があり、建築設計事務所で建築 意匠に携わっている教員が、その見識や経験を活かした 建築史の講義をする。建築設計上、意匠の占める要素は 非常に大きいといえる。日本・西洋建築史で各時代背景 とともに、国ごとの政治・経済・宗教・気候風土・生活 様式等の違いと、建築技術や材料の変化の過程を学ぶこ とで、建築の創造の原点にあるそれぞれの価値観を習得 する。	1 通	30		0			0			0	
5	0			構造力学 I	カ学の概念、力のつりあい、力とモーメント、断面の性質などの基本的事項の習熟に重点を置き、建築物などにどのような力がかかっているのかを学習する。具体的には、荷重と反力、静定ラーメン、トラス構造、不静定構造に等について教科書に沿って解説し、基礎的な問題での演習を交えることで理解を深める。	1 後	30		0			0			0	
6	0			一般構造	現役建築士が、監理業務において担当した実例や現場での経験談を交えながら、3つの主要な構造(木造・鉄筋コンクリート造・鉄骨造)の概要や構成、材料の特徴・特性等について講義する。		30		0	Δ		0			0	0

		1		
7	0	建築材料学	建築には長い歴史があり、いろいろな用途があり、様々な取り決めがある。その建築がどういう歴史をたどって発展してきたのか、また材料にはどんな特徴があるのか、どう使用されるのか、さらに環境問題など、人々の生活の身近にある材料の知識を建築設計、コーディネートの実務経験から解説し施工の面からも理解を深める。	0
8	0	施工I	現場監督として勤務経験を有する教員が、建築工事着工前から完成に至るまでの工程全般に関して、基礎的知識や概要を解説する。具体的には、施工計画の工程及び計画図の理解や、施工管理で考慮すべき材料管理や安全管理の重要事項を講義。さらに、各工事ごとに応工要点や規定の詳細を図式やイラスト・写真を用いて理解を深める。また、契約や仕様書の概要も解説し、建築工事全体の流れを講義する。	0
9	0	CAD演習A	建築設計業務においてCAD製図に携わった経験を持つ教 員が、コンピュータの基本操作から、2次元汎用CAD (jwcad)を利用した実務的な建築製図に必要な知識や 技術を指導する。	
10	0	パースペクティ ブ演習	本講義は建築設計の分野では立体図形の把握と表現は非常に重要な基礎能力である。この演習では、各種投影図 1 法についての講義と演習課題により透視図の制作方法を 後 6 45 6 6 6 6 6 6 6 6 6 6 6 6 6 6 6 6 6	
11	0	建築造形演習	造形に関わる基本的な考え方や工程、表現技法についての演習を行う。着眼、発想を元にしたコンセプトワークにはじまり、エスキス、図面化から造形に至るプロセスを通じて、思考と美的造形の表現力を深める。	0
12	0	色彩学	色彩についての基礎概念を理解し、色がどのような影響を与えるのか、その心理的な役割や効果、調和のとれた配色技法を修得する。また建築やインテリアだけに留ましらず、ファッションやプロダクト、ビジュアルデザインやディスプレイデザインなど様々な分野での基本的な配色技法を修得する。	
13	0	色彩学演習	色彩学で修得した配色技法等を実践的な課題制作を通し体験的に学ぶ。課題としてはインテリアパースやエクステリア、建築外観パース等に色彩計画をするなど、現場で必要とされる色彩についての知識や配色技法、また色彩感覚を養うものとする。	
14	0	グラフィック演 習	広告・看板等のグラフィックデザインの実務経験のある 講師により、DTP (デスクトップパブリッシング) ソフト であるAdobe Illustrator・Photoshopにて実践的な基本 操作を学び、作品集のまとめや最終課題である卒業制作 でのプレゼン用ポードのレイアウトテクニックを修得し ます。	

15	0	デッサン	実技デッサンを通して 正しく物体を認識し正しく描き写すことは非常に重要な基礎能力である。更にアドバンスして構成・造形・応用デッッサンを習得することにより、単なるデッサンから「表現力」へと導くことである。	0
16	0	コーディネート 演習 I	住宅メーカーでコーディネーターとして勤務経験を有する教員が、インテリアコーディネートの基礎を解説しながらコーディネートボード作成の実習を指導する。具体的には、インテリア構成要素の分析方法を学習し、実習として空間イメージボード・抽象イメージボード・外観イメージボードの作成を行う。最後に、自室空間のリフォーム提案の課題を通し、空間寸法の読み取り方や平面図作成の基本修得、イメージを他者に伝える為のボード作成方法を学習する。	
17	0	リフォーム概論	近年、建築物の老朽化やライフスタイルの変化に応じて、既存住宅のリフォームの需要が増えている。この授業では、リフォーム計画にあたっての必要な知識やノウハウ、関連する法規・構造を学ぶ。また多様な要望に応じたプランニング事例をみて、建築物をニーズに合ったものとして変化させる方法についての理解を深める。	
18	0	社会研究 I	働くことの意義、業界研究、自己分析を経て自己の社会的確立を目的とし、進路決定の基本となる考え方と就職前前 30 ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	
19	0	総合デザイン論	多岐に渡るデザイン分野の各専門知識や技術を、各専門 分野の講師陣からオムニバス形式により具体的実例を専 門家の考え方や手法を理解する。	0
20	0	ビジネスマナー	百貨店において、接客サービスに従事し、接遇指導の実績のある教員が、社会人としての基礎力を指導する。第一印象から身だしなみ、正しい言葉遣いから、「話す」「聞く」等の表現を実践的に身に付け、公的な場面での好感のもてるマナーやコミュニケーション力を修得する。	0
21	0	住宅計画論	住宅設計業務に携わった経験を持つ教員が、建築計画 I で履修した基本的な居住空間の計画を踏まえ、生活をより豊かにするために多様化する計画の手法や寸法・構造について詳説する。住まいの歴史やバリアフリーへの対応の仕方、建築基準法の規定や建築にかかわる費用などについても体系的に解説・指導する。	
22	0	福祉住環境計画	超高齢社会の日本では、福祉住環境整備の需要はますます高まっている。高齢者や障害者に対して住みやすい住環境を提案するために、建築の知識に加え、介護、福祉、医療について、総合的に解説する。その人らしい暮らしの回復・実現・維持をサポートするための住環境について、様々な視点から解説し、福祉用具等の活用についても詳説する。	

23	0	建築設計A	建築設計業務の経験を持つ教員の指導により、独立住宅を設計課題とした演習を通して、「住」とは何か、何をもって「住宅」と呼ぶことが出来るのかを考察し、コンセプト立案から空間構成の検討、基本設計へと各々のフェーズを確認しながら建築設計全体の流れを学ぶ。	0	0	
24	0	建築設備 I	設備設計事務所での勤務実績がある教員が、その経験を 生かし建築設備(給排水・冷暖房・換気・電気・防災) の基本的知識の理解を目標にし、建築物における設備の 重要性を説く	0		0
25	0	建築法規	建築基準法は社会情勢の変化等に応じて改正され、複雑化している。建築及び都市の計画、構造環境の全体像を把握するために、建築及び都市に関する法規や建築手法にわたる全般について修得する。	0	0	
26	0	CAD演習B	VectorWorksを利用した2次元製図技法及び3Dモデリングの描画法を修得する。視点のシュミレーション等を通じ、体感的に立体把握をするとともに、図面表現やシュミレーションを活用したプレゼンテーションにかかる技術までを目的とする。	0	0	
27	0	生成AI活用演習	この授業では、生成AIの基礎から実践的な活用までを学びます。学生は生成AIの概念や仕組みを理解し、テキスト生成、画像生成、データ分析など、具体的な応用方法を習得します。最終的には、実際の課題に生成AIを活用して解決策を提案できるスキルを身に付けます。初心者でも理解できるよう、基礎から段階的に発展的な内容へと進みます。	0	0	
28	0	家具デザイン演習	住空間に内包されるところの構成要素(インテリア・エレメント)の計画・設計をする領域の家具デザインにおける基本的な形態や材料・構造・人間と道具・空間とのかかわり方、人間の行為行動のサポートのために生まれてきた家具を「より快適に」「楽に」「無駄なく」などの要素を人間工学などで考察し、インテリアの基礎知識を基盤とし、デザインを現実化するための製図やパースの表現方法をまなび、体に優しいデザインについて考える方法論や演習を行う。	0		0
29	0	社会研究Ⅱ	将来の職業への関心を更に深め、働く事の意義や構造について学ぶと同時に、社会におけるコミュニケーションのあり方を修得し、意欲的な人生設計への実現に向けた選択行動が取れるようになる事を目的とする。	0	0	
30	0	ビジネス概論	1、経営コンサルタントとしての実務経験のある教員が、企業や店舗において売上・利益を上げる基礎知識を身に着けるために学生に身近な各種業界における収益構造について事例を参考に教える。 2、マーケティング(販売促進)の実務経験のある教員が企業の販促活動や広告の手法など、将来、企画・提案のできるデザイナーになるために知っておくべき事項について教える。	0		0

31	0	ビジネススキル 演習	ビジネス用アプリケーションソフトを扱う力は、現代では標準スキルとして求められる。本演習では、Microsoft officeのアプリケーションであるWord、Excel、PowerPointについての基本操作について解説した後、実務において必要な応用スキルを身につけるための実践的演習を行う。	2前	30		0	0	0		
32	0	建築設計B	建築設計業務の経験を持つ教員の指導により、比較的中規模集合住宅及び公共施設について各々課題を設定し演習を行う。建築計画が実際の設計でどのような役割を持っているのか実感し、また建築が地域や環境とどう結びついていかなければならないのかを考え、建築設計を行う者に必要な総合的な視野・知識・能力を養成する。	2前	105		0	0	0		
33	0	建築計画 II	建築計画学において策定された要点の整理を行い、与えられた課題敷地に設定された用途の建築を設計計画する演習を行う。1ターム3回で構成し、4課題(木造住居系、RC造住居系、公共建築系、商業建築系)を課す。		30	Δ	0	0	0		
34	0	建築環境工学	建築設計事務所で環境工学の観点から設計に携わっている教員が、その見識や経験を活かしての講義をする。建築設計を進める際に必要な環境工学の要素である音・光・空気・温熱・水環境とそこで生活活動する人間の関りについて基礎概念を理解する。	2	30	0		0		0	
35	0	構造力学Ⅱ	構造力学 I で学習した基礎的内容を踏まえ、さらに発展的な演習問題に取り組み建築物の構造計算の手順を学習する。具体的には、基礎的問題の確認を行いながら、それらを組み合わせて解かなければならない不静定構造物の応力の求め方、さらに建築物の二次設計が必要な場合に要求される必要保有水平耐力の係数の理解、塔状比を確認して建築物の転倒の検討を行う計算の流れなどを学習する。	2 前	30	0		0		0	
36	0	木構造計画演習	木構造を専門とする現役建築士が、設計業務に携わった 実例プランを用いて、軸組配置の検討や接合金物選定等 の実践的な演習の指導を行う。		30		0	0		0	
37	0	積算 I	住宅メーカーで積算業務に携わった経験を持つ教員が、 建築数量積算基準に基づき、各工種ごとに材料算出方法 を講義する。概要の解説を行った後に、電卓やスケール を用いて、教科書の図面及び仕様を確認しながら部材積 算を行い、基礎手順を解説。工種ごとの単位や所要数量 の違いを理解し、材料ごとに正確な拾い出しが行えるよ う講義を行う。	2 前	30	0	Δ	0		0	
38	0	積算Ⅱ	住宅メーカーで積算業務に携わった経験を持つ教員が、 実行予算書の作成や内訳明細書作成等の業務演習の授業 を行う。実務同様にエクセルを使用してそれぞれ雛形原 本を作成、各項目の割増率や利益掛け率の設定を行い、 設計図書や仕様書を基に拾い出し数量をデータ入力し、 積算書類を完成させる。また、積算業務と密接に関係す る発注書や請書の基礎知識、粗利率や施主提示額の計算 方法など、資金に関係する全体の流れも把握し、工務積 算として即戦力となる演習を行う。	2 後	30	0	Δ	0		0	

39	0		建築設備Ⅱ	設備設計事務所で勤務実績のある教員が、建築設備 I で学んだ基本的知識をもとに、各種建築物における機械認備、電気設備などの留意点について詳説する。併せて、特定建築物を題材とした設備設計の考え方を示し、簡易な演習をおこなったうえで解説する。	2	45	0	Δ		0			0	
40	0		施工Ⅱ	現場監督として勤務経験を有する教員が、建築工事者工前から完成に至るまでの工程全般に関して、施工監理者として必要な専門的工事詳細を解説する。具体的には、実際の現場に応じた工程表の作成や日数計算・品質管理の考え方・各工種別に専用機械を用いた施工納まりの計細・重複する工事の施工手順の要点などを講義。さらに、地積測量方法を学び、測量や標高の基本計算が行えるよう理解を深める。	2 後	45	0	Δ		0			0	
41	0		卒業制作B	建築設計、施工及びインテリアコーディネートなど空間デザイン分野の実務経験を持つ教員により学生各自が認定されたテーマに対し、これまで習得してきた建築やインテリアなどの空間デザイン領域に関する専門的な知識や技術、感性、表現等を使い、これからの社会への問題提起・解決に向けての提案を行っていく。	2通	225		0		0		0		
42	0		卒業制作C	卒業制作A又はBで学生各自が設定した課題について、 模型製作をおこなう。	2後	30		0		0		0		
		合	計	42	2 科	目			1920	単位	立 (.	単位	時間	1)

卒業要件及び履修方法	授業期間等	Ť
・出席率が80%以上であること ・当該年次の科目全てに合格すること 卒業要件: ・卒業制作又は卒業研究に合格すること ・当該年次の授業料等諸経費が完納されていること	1 学年の学期区分	2 期
履修方法: 学則に定める教育課程に基づき授業科目を履修し、学修の評価により科目を修得する	1 学期の授業期間	15 週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合 については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について〇を付すこと。

職業実践専門課程等の基本情報について

		設	置認可年月	月日 杉	交長名			所在地		
熊本デザイン専門設置者名			成5年12月2 立認可年月		内藤謙一表者名	〒 (住所) (電話)	862-0973 熊本県熊本市中央区 096-364-8500	大江本町2-5 所在地		
学校法人未来創	造学園	平	成22年3月	2日 理事長	:吉山昌利	〒 (住所) (電話)	862-0976 熊本県熊本市中央区 096-362-5656	九品寺2丁目2-38		
分野		認定課程名		認定学科 建築・インテリアラ	デザイン 科		門士認定年度	高度専門士認定年		専門課程認定年度
文化・教養	J	工業専門課	!程	(インテリアコーデ コース)		平月	成22(2010)年度	-	平成	28(2016)年度
学科の目的	建築・イン	テリアデザー	イン・家具等	「の、空間デザイン分野	野における幅広	い知識と実	異践に必要となる技術を有	する人材を育成し、業界	早へ送り出すことを目	的とする。
学科の特徴(取得 可能な資格、中退 率 等)	色彩検定	、福祉住環境	境コーディネ	ペーター、リフォームス	タイリスト、イン・	テリアコー	ディネーター、宅地建物取	3引士、建築士、建築施	工管理技士等の取得	手を目指す。
修業年限	昼夜	全課程の		な総授業時数又は総 立数	講事	É	演習	実習	実験	実技
2	昼間	※単位時間、 かに記入	、単位いずれ	1,920 単位時間 単位	615	単位時間単位	1,305 単位時間 単位	0 単位時間	0 単位時間単位	0 単位時間単位
生徒総定員	生徒到	実員(A)	留学生	数(生徒実員の内数)(B)	留学生割·		中退率	+12	+12	+44
80 人	70) 人		0 人	0	%	3 %			
	■卒業者 ■ 対際系		:	4		<u> </u>	=			
	■就職者		:	4		<u> </u>	- -			
	■地元就 ■就職率	職者数(F (E/D))	2 100%		<u>人</u> %	_			
			元就職者(D割合 (F/E)			=			
	■卒業妻	に占める就	職者の割る	50% (F/C)		%	=			
就職等の状況			.4成-日 07 日 1	100%		%	_			
カッシャリス・マナ マン 1人 パじ	■進学者			0		Д	_			
	特記なし									
	(令和			作に関する令和7年5月	11日時点の情報	級)				
		職先、業界	早等							
	(令和6年度 建築設計		「発店.ハ	ウスメーカー、家具・	インテリア雑貨	1150 市店等	<u> </u>			
					// ጥደም	-,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,				
W = +1 - 1 - 7		評価機関等 3、例えば以					無			
第三者による 学校評価							≅V £u.	i結果を掲載した		
		評価団体:			受審年月:		赤—	トムページURL		
当該学科の										
ホームページ URL	inttns://w									
	1110001771	/ww.kuman	noto-desig	n.ac.jp						
		/ww.kumam 立時間による		n.ac.jp						
			る算定)	n.ac.jp					1,920 単位時間	
		立時間による	る算定)	n.ac.jp 等と連携した実験・実	習・実技の授業	業時数			1,920 単位時間 0 単位時間	
		立時間による	る算定) 数 うち企業等			業時数				
		立時間による	る算定) 数 うち企業等	等と連携した実験・実 等と連携した演習の授		業時数			0 単位時間	
		立時間による	る算定) 数 うち企業等	等と連携した実験・実 等と連携した演習の授	業時数		技の授業時数		0 単位時間	
		立時間による	る算定) 数 うち企業等	等と連携した実験・実 等と連携した演習の授 受業時数	業時数 た必修の実験・	実習・実	技の授業時数		0 単位時間 0 単位時間 30 単位時間	
企業等レ連株 1 +-		立時間による	る算定) 数 うち企業等 うち企業等	等と連携した実験・実 等と連携した演習の授 受業時数 うち企業等と連携し	業時数 た必修の実験・ た必修の演習の	実習・実)授業時数	技の授業時数		0 単位時間 0 単位時間 30 単位時間 0 単位時間	
企業等と連携した実習等の実施状況	(A:単f	立時間による	る算定) 数 うち企業等 うち企業等	等と連携した実験・実 等と連携した演習の授 受業時数 うち企業等と連携し うち企業等と連携し	業時数 た必修の実験・ た必修の演習の	実習・実)授業時数	技の授業時数		0 単位時間 0 単位時間 30 単位時間 0 単位時間	
実習等の実施状況 (A、Bいずれか	(A:単f	立時間による	る算定) 数 うち企業等 うち企業等 うち必修打	等と連携した実験・実 等と連携した演習の授 受業時数 うち企業等と連携し うち企業等と連携し	業時数 た必修の実験・ た必修の演習の	実習・実)授業時数	技の授業時数		0 単位時間 0 単位時間 30 単位時間 0 単位時間	
実習等の実施状況	(A:単f	立時間による総授業時数	る算定) 数 うち企業等 うち企業等 うち必修打	等と連携した実験・実 等と連携した演習の授 受業時数 うち企業等と連携し うち企業等と連携し	業時数 た必修の実験・ た必修の演習の	実習・実)授業時数	技の授業時数		0 単位時間 0 単位時間 30 単位時間 0 単位時間	
実習等の実施状況 (A、Bいずれか	(A:単f	立時間による	る算定) 数 うち企業等 うち必修計 (うち企き	等と連携した実験・実 等と連携した演習の授 受業時数 うち企業等と連携し うち企業等と連携し	業時数 た必修の実験・ た必修の演習の ーンシップの打	実習・実)授業時数) 受業時数)	技の授業時数		0 単位時間 0 単位時間 30 単位時間 0 単位時間 0 単位時間	
実習等の実施状況 (A、Bいずれか	(A:単f	立時間による	る算定) 数 うち企業等 うち必修計 (うち企き 算定)	等と連携した実験・実 等と連携した演習の授 受業時数 うち企業等と連携し うち企業等と連携し 業等と連携したインタ	業時数 た必修の実験・ た必修の演習の ーンシップの打	実習・実)授業時数) 受業時数)	技の授業時数		0 単位時間 0 単位時間 30 単位時間 0 単位時間 0 単位時間 0 単位時間 0 単位時間	
実習等の実施状況 (A、Bいずれか	(A:単f	立時間による	る算定) 数 うち企業等 うち必修計 (うち企き 算定)	等と連携した実験・実 等と連携した演習の授 受業時数 うち企業等と連携し うち企業等と連携し ま等と連携したインタ 等と連携した実験・実 等と連携した演習の単	業時数 た必修の実験・ た必修の演習の ーンシップの打	実習・実)授業時数) 受業時数)	技の授業時数		0 単位時間 0 単位時間 30 単位時間 0 単位時間 0 単位時間 0 単位時間 0 単位時間	
実習等の実施状況 (A、Bいずれか	(A:単f	立時間による	る算定) 数 うち企業等 うち必修打 (うち企き 算定)	等と連携した実験・実 等と連携した演習の授 受業時数 うち企業等と連携し うち企業等と連携し ま等と連携したインタ 等と連携した実験・実 等と連携した演習の単	業時数 た必修の実験・ た必修の演習の 一ンシップの打 で、実技の単位 位数	実習・実)授業時数) 受業時数) 立数			0 単位時間 0 単位時間 30 単位時間 0 単位時間 0 単位時間 0 単位時間 0 単位 0 単位	
実習等の実施状況 (A、Bいずれか	(A:単f	立時間による	る算定) 数 うち企業等 うち必修打 (うち企き 算定)	等と連携した実験・実 等と連携した演習の授 受業時数 うち企業等と連携し うち企業等と連携し ま等と連携したインタ 等と連携した実験・実 等と連携した演習の単	業時数 た必修の実験・ た必修の演習の 一ンシップの社 習・実技の単位位数 た必修の実験・	実習・実)授業時数) 受業時数) 立数			0 単位時間 0 単位時間 30 単位時間 0 単位時間 0 単位時間 0 単位時間 0 単位時間 0 単位 0 単位 0 単位	
実習等の実施状況 (A、Bいずれか	(A:単f	立時間による	る算定) 対 うち企業等 うち必修性 (うち企業等 うち企業等 うち企業等 うち企業等	等と連携した実験・実 等と連携した演習の授 受業時数 うち企業等と連携し うち企業等と連携したインタ 等と連携したインタ 等と連携した演習の単 単位数 うち企業等と連携し うち企業等と連携した演習の単	業時数 た必修の実験・ た必修の演習の ーンシップの社 習・実技の単位位数 た必修の実験・ た必修の実験・	実習・実)授業時数) 立数 実習・実)単位数			0 単位時間 0 単位時間 30 単位時間 0 単位時間 0 単位時間 0 単位時間 0 単位 0 単位 0 単位 0 単位	
実習等の実施状況 (A、Bいずれか	(A:単f	立時間による	る算定) 対 うち企業等 うち必修性 (うち企業等 うち企業等 うち企業等 うち企業等	等と連携した実験・実 等と連携した演習の授 受業時数 うち企業等と連携し うち企業等と連携し 業等と連携したインタ 等と連携した演習の単 単位数 うち企業等と連携し うち企業等と連携し うち企業等と連携し	業時数 た必修の実験・ た必修の演習の ーンシップの社 習・実技の単位位数 た必修の実験・ た必修の実験・	実習・実)授業時数) 立数 実習・実)単位数			0 単位時間 0 単位時間 30 単位時間 30 単位時間 0 単位時間 0 単位時間 0 単位 0 単位	
実習等の実施状況 (A、Bいずれか	(A:単f	立時間による 総授業時 並数による 総単位数	る算定) 数 うち企業等 うち企業等 (うち企き 算定) うち企業等 うち企業等 うち企業等 うち企企業等 うち企業等	等と連携した実験・実 等と連携した演習の授 受業時数 うち企業等と連携し うち企業等と連携したインタ 等と連携した大実験・実 等と連携した演習の単 単位数 うち企業等と連携し うち企業等と連携し うち企業等と連携し	業時数 た必修の実験・ た必修の演習の 一ンシップの社 習・実技の単位位数 た必修の実験・ た必修の実験・ た必修の実験・ た必修の実験・	実習・実)授業時数) 立数 実習・実)単位数			0 単位時間 0 単位時間 30 単位時間 30 単位時間 0 単位時間 0 単位時間 0 単位 0 単位	
実習等の実施状況 (A、Bいずれか	(A:単f	立時間による 総授業時 が 総 が は る が は る が の の も の も の も の も の も の も の も の も の も	る算定) うち企業等 うち必修 うちからない。 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	等と連携した実験・実 等と連携した演習の授 受業時数 うち企業等と連携し うち企業等と連携したインタ 等と連携した実験・実 等と連携した演習の単 並位数 うち企業等と連携し うち企業等と連携し まな業等と連携し まなます。 まなまます。 まなます。 まなます。 まなます。 まなます。 まなます。 まなます。 まなます。 まなます。 まなまなます。 まなまます。 まなます。 まなまます。 まなまます。 まなままます。 まなまままままます。 まなままままままままままままままままままままままままままままままままままま	業時数 た必修の実験・ た必修の演習の 一ンシップの計 では、 などのでは、 などのでは、 などのでは、 などのでは、 などのでは、 ないでは、 ないで	実習・実 シ授業時数) 立数 実習・実 シ単位数 単位数	技の単位数	省 (是)	0 単位時間 0 単位時間 30 単位時間 0 単位時間 0 単位時間 0 単位時間 0 単位	
実習等の実施状況 (A、Bいずれか	(A:単f	立時間による 総授業時数 による 総単位数 でも担業 でも当業	る算定) うち企企業等 うちな企業等 (うち 企企 業等 (うち を 企 を を を を を を を を を を を を を を を を を	等と連携した実験・実 等と連携した演習の授 受業時数 うち企業等と連携し うち企業等と連携したインタ 等と連携した演習の単 単位数 うち企業等と連携した演習の単 単位数 うち企業等と連携した ま等と連携した次 な業等と連携した。 な業等と連携した。 な業等と連携した。 な業等と連携した。 など、まずと連携した。 など、まずと連携した。 など、まずと、まずと、まずと、まずと、まずと、まずと、まずと、まずと、まずと、まずと	業時数 た必修の実験・ た必修の演習の 一ンシップの計 では、 などのでは、 などのでは、 などのでは、 などのでは、 などのでは、 ないでは、 ないで	実習・実 シ授業時数) 立数 実習・実 シ単位数 単位数		f 19)	0 単位時間 0 単位時間 30 単位時間 30 単位時間 0 単位時間 0 単位時間 0 単位 0 単位	
実習等の実施状況 (A、Bいずれか	(A:単f	立時間による 総授業時 が 総 が は る が は る が の の も の も の も の も の も の も の も の も の も	る算定) うち企企業等 うちな企業等 (うち 企企 業等 (うち を 企 を を を を を を を を を を を を を を を を を	等と連携した実験・実 等と連携した演習の授 受業時数 うち企業等と連携し うち企業等と連携したインタ 等と連携した実験・実 等と連携した演習の単 並位数 うち企業等と連携し うち企業等と連携し まな業等と連携し まなます。 まなまます。 まなます。 まなます。 まなます。 まなます。 まなます。 まなます。 まなます。 まなます。 まなまなます。 まなまます。 まなます。 まなまます。 まなまます。 まなままます。 まなまままままます。 まなままままままままままままままままままままままままままままままままままま	業時数 た必修の実験・ た必修の演習の 一ンシップの計 では、 などのでは、 などのでは、 などのでは、 などのでは、 などのでは、 ないでは、 ないで	実習・実 シ授業時数) 立数 実習・実 シ単位数 単位数	技の単位数	fil-9)	0 単位時間 0 単位時間 30 単位時間 0 単位時間 0 単位時間 0 単位時間 0 単位	
実習等の実施状況 (A、Bいずれか	(A:単f	立時間による 総授業時 が はよる数 を はな数 で を も当業と た で のの修上	る算定) うち企企業等 うちな企業等 (うち 企企 業等 (うち を 企 を を を を を を を を を を を を を を を を を	等と連携した実験・実 等と連携した演習の授 受業時数 うち企業等と連携し うち企業等と連携したインタ 等と連携した演習の単 単位数 うち企業等と連携し うち企業等と連携し っち企業等と連携し っち企業等と連携し っち企業等と連携し っち企業等と連携し っち企業等と連携し っち企業等と連携し っち企業等と連携し っち企業等と連携し っち企業等と連携し っち企業等と連携し っち企業等と連携し っち企業等と連携し っちであって 業務に従事した期間と	業時数 た必修の実験・ た必修の演習の 一ンシップの計 では、 などのでは、 などのでは、 などのでは、 などのでは、 などのでは、 ないでは、 ないで	実習・実 ②受業時数) 立数 実習・実 ②単位数) (専修*)	技の単位数		0 単位時間 0 単位時間 30 単位時間 0 単位時間 0 単位時間 0 単位時間 0 単位	
実習等の実施状況 (A、Bいずれか に記入)	(A:単f	立時間による 総授業時 が 総単位数 (1) 専担業と な (2) 学士の	る算定) なうち企企業等 うちな企業等 うちな企業等 (うちな企業等 (うちな企業等 (うちな企業等 (うちな企業等 (うちな企業等 (うちな企業等 を企業等 を企業等 を定 を定 を変	等と連携した実験・実 等と連携した演習の授 受業時数 うち企業等と連携し うち企業等と連携したインタ 等と連携した演習の単 位数 うち企業等と連携し うち企業等と連携した 実等と連携した演習の単 が表する はない。 は、 はない。 はない。 はない。 はない。 はない。 は、 はない。 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、	業時数 た必修の実験・ た必修の演習の 一ンシップの計 では、 などのでは、 などのでは、 などのでは、 などのでは、 などのでは、 ないでは、 ないで	実習・実 ②授業時数) 立数 実習・実 ②単位数 (専修年 (専修年	技の単位数 学校設置基準第41条第1項領	第2号)	0 単位時間 0 単位時間 30 単位時間 0 単位時間 0 単位時間 0 単位時間 0 単位 0 単位 0 単位 0 単位 0 単位	
実習等の実施状況 (A、Bいずれか に記入)	(A:単f	立時間による 総授業時 が はよる引 を は を は を も は を り で の が と と で の の り と り る の り る り る の り る り の り る り の り と り る の り る り る の り る り る り る り る の り る の り る る の る の	る算定) 対 うち企業等 うち企业業等 うちな企業等 (うちないないないないないないないないないないないないないないないないないないない	等と連携した実験・実 等と連携した演習の授 受業時数 うち企業等と連携し うち企業等と連携したインタ 等と連携した演習の単 単位数 うち企業等と連携した演習の単 単位数 うち企業等と連携した演習の単 単位数 ま等と連携した方の単 単位数 ま等と連携したが表記 ま等と連携したがあまる。 は事じたもの間と は事じたもの間と は事じたもの間と は事じたもの間と は事じたもの間と は事じたもの間と は事じたもの間と は事じたもの間と は事じたもの間と は事じをものもの。	業時数 た必修の実験・ た必修の演習の 一ンシップの計 では、 などのでは、 などのでは、 などのでは、 などのでは、 などのでは、 ないでは、 ないで	実習・実習・実)授業時数) 立数 実習・実)単位数) (専修年 (専修年	技の単位数 学校設置基準第41条第1項領 学校設置基準第41条第1項領	第2号) 第3号)	0 単位時間 0 単位時間 30 単位時間 0 単位時間 0 単位時間 0 単位時間 0 単位 0 単位 0 単位 0 単位 1 人	
実習等の実施状況 (A、Bいずれか に記入)	(A:単f	立時間による 総授業時数 による が単位数 でも数単位数 でも当業とたって、 でも当業とたって、 でも当業となって、 でも当業となって、 でも当業となって、 でも当業となって、 でも、 でも、 でも、 でも、 でも、 でも、 でも、 でも、 でも、 でも	る算定 うち企企業等 うちち必修 (ううちの企業等を (ううちの企業を (ううちの企産を (ううちの企産を (ううちの企産を (ううちののなど) (うちののなど) (うちのなど) (うなのなど) (うな	等と連携した実験・実 等と連携した演習の授 受業時数 うち企業等と連携し うち企業等と連携したインタ 等と連携した演習の単 単位数 うち企業等と連携した演習の単 単位数 うち企業等と連携した演習の単 単位数 ま等と連携した方の単 単位数 ま等と連携したが表記 ま等と連携したがあまる。 は事じたもの間と は事じたもの間と は事じたもの間と は事じたもの間と は事じたもの間と は事じたもの間と は事じたもの間と は事じたもの間と は事じたもの間と は事じをものもの。	業時数 た必修の実験・ た必修の演習の 一ンシップの計 では、 などのでは、 などのでは、 などのでは、 などのでは、 などのでは、 ないでは、 ないで	実習・実習・実 ②授業時数) 立数 実習・実 ②単位数 (専修等 (専修等	技の単位数 学校設置基準第41条第1項第 学校設置基準第41条第1項第 学校設置基準第41条第1項第 学校設置基準第41条第1項第	第2号) 第3号) 第4号)	0 単位時間 0 単位時間 30 単位時間 30 単位時間 0 単位時間 0 単位時間 0 単位時間 0 単位 0 単位 0 単位 0 単位 1 人 3 人 0 人	
実習等の実施状況 (A、Bいずれか に記入)	(A:単f	立時間による 総授業時数 による 3 を 4 (事) (事) (事) (事) (事) (事) (事) (事) (事) (事)	る算定 うち企企業等 うちち必修 (ううちの企業等を (ううちの企業を (ううちの企産を (ううちの企産を (ううちの企産を (ううちののなど) (うちののなど) (うちのなど) (うなのなど) (うな	等と連携した実験・実 等と連携した演習の授 受業時数 うち企業等と連携し うち企業等と連携したインタ 等と連携した演習の単 単位数 うち企業等と連携した演習の単 単位数 うち企業等と連携した演習の単 単位数 ま等と連携した方の単 単位数 ま等と連携したが表記 ま等と連携したがあまる。 は事じたもの間と は事じたもの間と は事じたもの間と は事じたもの間と は事じたもの間と は事じたもの間と は事じたもの間と は事じたもの間と は事じたもの間と は事じをものもの。	業時数 た必修の実験・ た必修の演習の 一ンシップの計 では、 などのでは、 などのでは、 などのでは、 などのでは、 などのでは、 ないでは、 ないで	実習・実習・実 ②授業時数) 立数 実習・実 ②単位数 (専修等 (専修等	技の単位数 学校設置基準第41条第1項第 学校設置基準第41条第1項第	第2号) 第3号) 第4号)	0 単位時間 0 単位時間 30 単位時間 30 単位時間 0 単位時間 0 単位時間 0 単位時間 0 単位 0 単位 0 単位 1 人 3 人 0 人 0 人	
実習等の実施状況 (A、Bいずれか に記入)	(A:単f	立時間による 総授業時数 による が単位数 でも数単位数 でも当業とたって、 でも当業とたって、 でも当業となって、 でも当業となって、 でも当業となって、 でも当業となって、 でも、 でも、 でも、 でも、 でも、 でも、 でも、 でも、 でも、 でも	る算定 うち企企業等 うちち必修 (ううちの企業等を (ううちの企業を (ううちの企産を (ううちの企産を (ううちの企産を (ううちののなど) (うちののなど) (うちのなど) (うなのなど) (うな	等と連携した実験・実 等と連携した演習の授 受業時数 うち企業等と連携し うち企業等と連携したインタ 等と連携した演習の単 単位数 うち企業等と連携した演習の単 単位数 うち企業等と連携した演習の単 単位数 ま等と連携した方の単 単位数 ま等と連携したが表記 ま等と連携したがあまる。 は事じたもの間と は事じたもの間と は事じたもの間と は事じたもの間と は事じたもの間と は事じたもの間と は事じたもの間と は事じたもの間と は事じたもの間と は事じをものもの。	業時数 た必修の実験・ た必修の演習の 一ンシップの計 では、 などのでは、 などのでは、 などのでは、 などのでは、 などのでは、 ないでは、 ないで	実習・実習・実 ②授業時数) 立数 実習・実 ②単位数 (専修等 (専修等	技の単位数 学校設置基準第41条第1項第 学校設置基準第41条第1項第 学校設置基準第41条第1項第 学校設置基準第41条第1項第	第2号) 第3号) 第4号)	0 単位時間 0 単位時間 30 単位時間 30 単位時間 0 単位時間 0 単位時間 0 単位時間 0 単位 0 単位 0 単位 0 単位 1 人 3 人 0 人	
実習等の実施状況 (A、Bいずれか に記入)	(A:単f	立時間による 総授業時素 が単位数 である。 である。 である。 である。 でも、 でも、 でも、 でも、 でも、 でも、 でも、 でも、 でも、 でも、	る算定 うち企企業等 うちな必修析 (ううちの会別を対している。) 「算に対している。」 「うちな必修析・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	等と連携した実験・実 等と連携した演習の授 受業時数 うち企業等と連携し うち企業等と連携した 実等と連携した演習の単 位数 うち企業等と連携した演習の単 位数 うち企業等と連携した ま等と連携した演習の単 ができる。 はないでは、 はないである。 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、	業時数 た必修の実験・ た必修の実験・ た必修の実験・ た必修の実質の ・ 要技の単作 を必修のの演習の ・ を必修のので を を を を を を を を を を を を を を を を を を	実習・実 ②授業時数) 立数 実習・要 ②単位数) (専修等 (専修等 (専修等	技の単位数 学校設置基準第41条第1項第 学校設置基準第41条第1項第 学校設置基準第41条第1項第 学校設置基準第41条第1項第 学校設置基準第41条第1項第	第2号) 第3号) 第4号) 第5号)	0 単位時間 0 単位時間 30 単位時間 30 単位時間 0 単位時間 0 単位時間 0 単位時間 0 単位 0 単位 0 単位 1 人 3 人 0 人 0 人	
実習等の実施状況 (A、Bいずれか に記入)	(A:単f	立時間による 総授業時数 による 3 を 4 を 1 ・ 2 ・ 3 ・ 4 ・ 5 ・ 4 ・ 5 ・ 6 ・ 7 ・ 7 ・ 7 ・ 7 ・ 7 ・ 7 ・ 7 ・ 7 ・ 7	る算定	等と連携した実験・実 等と連携した演習の授 受業時数 うち企業等と連携し うち企業等と連携した 実等と連携した演習の単 位数 うち企業等と連携した演習の単 位数 うち企業等と連携した ま等と連携した演習の単 ができる。 はないでは、 はないである。 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、	業時数 た必修の実験・ た必修の実験・ た必修の実験・ た必修の実質の ・ 要技の単作 を必修のの演習の ・ を必修のので を を を を を を を を を を を を を を を を を を	実習・実 ②授業時数) 立数 実習・要 ②単位数) (専修等 (専修等 (専修等	技の単位数 学校設置基準第41条第1項第 学校設置基準第41条第1項第 学校設置基準第41条第1項第 学校設置基準第41条第1項第	第2号) 第3号) 第4号) 第5号)	0 単位時間 0 単位時間 30 単位時間 30 単位時間 0 単位時間 0 単位時間 0 単位時間 0 単位 0 単位 0 単位 1 人 3 人 0 人 0 人	

- 「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っているこ と。」関係
- (1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

業界における人材の専門性に関する動向、地域の産業振興の方向性、必要な実務に関する知識や技能などを十分に把握・分析したうえで、当該専 門課程の教育を施すためにふさわしいと考えられる授業科目の開設や、授業内容・方法の改善・工夫を行い、企業の要請を十分に活かし、実践的 かつ専門的な職業教育を主体的に行うために、教育課程編成委員会を設置する。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

教育課程編成委員会委員は学校法人未来創造学園職員及び企業・団体役職者等の外部委員からなるものとし、互いの視点からの意見を積極的 に交換・活用し、より良い教育課程の編成を協力して行うものと位置付ける。

教育課程編成委員会は、各学科から示されたカリキュラム等の内容や実施状況について、業界において必要となる技術や知識を有する人材を育 てる観点から十分な審議を行い、教育課程の編成や内容についての具体的な方策を講じ、意見表明を行う。その後、各学科において当該意見を反 映した授業実施案を作成し、次回の教育課程編成委員会にて報告・審議・承認を受けたのち、学校長決裁を経て次年度教育課程が決定される。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和7年10月1日現在

名 前	所 属	任期	種別
島村 徹	一般社団法人熊本県建築士事務所協会 監事	令和6年4月1日~令和8年3 月31日(2年)	1
田中 誠一	株式会社コムハウス 代表取締役	令和6年4月1日~令和8年3 月31日(2年)	3
内藤 謙一	学校法人未来創造学園 熊本デザイン専門学校 学校長	令和7年4月1日~令和8年3 月31日(1年)	_
児玉 守	学校法人未来創造学園 熊本デザイン専門学校 教務部長	令和7年4月1日~令和8年3 月31日(1年)	_
千田 浩一	学校法人未来創造学園 熊本デザイン専門学校 教務	令和7年4月1日~令和8年3 月31日(1年)	_

- ※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①~③のいずれに該当するか記載すること。
- (当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「一」を記載してください。) ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、
- - 地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
 - ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員
- (4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回 (3月、8月)

(開催日時(実績))

第1回 令和6年10月3日 10:30~11:30

第2回 令和7年3月21日 14:00~15:00

- (5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況
- ※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

【第1回】

- 。 (意見)生成AIの進化は予想以上であり、実務で使っている会社や事務所も増えてきた印象がある。カリキュラム・情報収集を含め、柔軟な対応を図ってほしい。
- (取組)Al関連の授業については今年度のカリキュラムは次年度採用できない可能性が高く、年度末に改めてカリキュラム更新を検討したい。また、教員をAl関連の研修に派遣し 最新の情報収集にも努める予定である。併せて、AI業界から優秀な人材を顧問として迎える計画も進めている。 【第2回】
- (意見)業界の資格も様々あるが、授業科目と取得資格の関連をもっとはっきりしたほうが良い。学生の意欲創出につながると思う。また、授業実施時期と取得資格の試験日をリ けさせる工夫もしてほしい
- (取組)授業ガイダンス時点で、取得目標資格を明示し、試験日までのステップを細かく示すこととした。また、極力試験日にむけ授業を進められるよう授業実施時期を調整した。
- 2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係
- (1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

空間デザインに関連する業界における実践的な技術や知識を有する人材を育てることを目的とし、授業内容について企業側講師と担当教員が十 分な検討を行ったうえで、できうる限り企業・業界の現場における実務プロセスやノウハウを重視した授業展開を行うことを基本方針とする。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

教育課程編成委員会等において出された意見を基に、事前に職業教育協定書により協定を締結した企業側講師と担当教員による綿密な打ち合わ せを行い、授業内容や学修成果の評価方法を決定する。また、演習期間中は随時情報交換を行うことで、学修効果の向上を図るとともに、演習終 了後には、企業側講師による学生の学修成果の評価を踏まえ、担当教員が成績評価を行う。

(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

1.【校内】企業 現役建築士が、監理業務において担当した実例や現場での経 等からの講師 が全ての授業 を主担当 現役建築士が、監理業務において担当した実例や現場での経 験談を交えながら、3つの主要な構造(木造・鉄筋コンクリート 近・鉄骨造)の概要や構成、材料の特徴・特性等について講義 する。	科 目 名	企業連携の方	科 目 概 要	連携企業等
	一般構造 	等からの講師 が全ての授業	験談を交えながら、3つの主要な構造(木造・鉄筋コンクリート 造・鉄骨造)の概要や構成、材料の特徴・特性等について講義	キムラハウジング

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

「学校法人未来創造学園熊本デザイン専門学校教職員研修規程」に基づき、専攻分野に係わる教員の資質(知識、技術、技能)が何かを、関連す る企業や関連団体等に広く意見を伺い、効果的な指導がなされるよう研修計画を立てて実施する。また、学級運営力の向上や教育法の習得等の 研修にも併せて取り組んでいく。研修機会としては、関連する企業や関連団体等から招いた講師による学内研修や、各種団体が開催する学外研修 が考えられる。

(2)研修等の実績

①専攻分野における実務に関する研修等

JapanHome & BuildingShow2024 研修名:

連携企業等:一般社団法人日本能率協会

令和6年11月20日(水)~11月22日(金) 期間:

対象: 建築・インテリア業界等

建材やインテリア製品、構造材・部材、設備、サービスなど住宅から商業施設、まちづくりにおける建築に関する幅広い最新情報を 内容 知る。

研修名: JAPAN BUILD-建築の先端技術展- 連携企業等: RX Japan株式会社

令和6年12月11日(水)~12月13日(金) 期間:

対象: 建築・不動産業界等

建築・建設・不動産業界の最新の製品が出展する専門展示会で、業界セミナーも開催され9コマ受講 内容

研修名: アイカ現代建築セミナー 連携企業等:アイカ現代建築セミナー実行委員会

期間: 2024年11月27日(水) 対象: 建築業界等

建築文化の向上と発展を目的に、国内外の著名な建築家を講師に迎え、住宅・環境・都市空間など幅広い分野にわたるセミナー 内容

②指導力の修得・向上のための研修等

最新生成AIトレンドについて 研修名:

連携企業等: 未来創造学園

期間: 令和6年7月31日(水)14時15分~16時 対象: 企業・学校関係者等

AI導入の成功事例、AI活用による地域戦略、人材育成の新しい方法論 内容

研修名: 発達障害のある生徒への具体的な支援/合理的配慮 連携企業等:熊本市発達障がい者支援センターみなわ

期間: 令和6年8月4日(木)10時~12時 対象: 学校関係者等

合理的配慮の基本、現場で悩みがちなケースの共有、支援や環境調整等についての考え方 内容

大学志向が高まる中での専門学校における学生募集戦略とは 研修名:

連携企業等:株式会社進研アド

期間: 令和6年9月24日(火)16時~17時 対象: 専門学校教職員等

内容 高等教育機関[大学・専門学校]の最新動向、高校現場における進路研究の最新動向

(3)研修等の計画

①専攻分野における実務に関する研修等

オルガテック東京2025 SHIFT DESIGN 研修名:

連携企業等:一般社団法人日本オフィス家具協会

期間: 令和7年6月3日(火)~6月5日(木) 対象:建築・インテリア業界等

オフィス家具やマテリアル、ICTテクノロジーなど、未来の働き方や空間づくりの最新トレンド情報を収集及び業界セミナーの受講 内容

研修名: JapanHome & Building Show 2023 連携企業等:一般社団法人日本能率協会

令和7年11月19日(水)~11月21日(金) 期間:

対象: 建築・インテリア業界等

建材やインテリア製品、構造材・部材、設備、サービスなど住宅から商業施設、まちづくりにおける建築に関する幅広い最新情報を 内容

知る。

オンライン木造建築講座 研修名:

連携企業等: 高知県立林業大学校 対象:建築・インテリア業界等

期間: 2025年7月18日(金)

「鉄と小径材で薄い一枚屋根をつくる」高知県産の流通製材を用い、鉄を適材適所に併用することで軽量かつ大スパンを覆う大屋 根を実現する構法について学ぶ。木材の地域利用に基づきつつ、鉄とのハイブリッドによる構造的合理性と意匠的洗練を両立させ 内容 る試み.

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名: 専門学校における発達障害支援とは? 連携企業等: 筑波大学ダボットプロジェクト

期間: 令和7年1月16日(火)17時~19時 対象:一般•学校教職員等

専門学校における発達障害支援をテーマとし、知見、学生支援の実態、支援ツールの活用について 内容

未来の専修学校をつくる~教員研修と卒業生調査のヒント~ 研修名:

連携企業等: 株式会社三菱総合研究所

令和7年2月18日(火)16時~18時 期間:

対象: 専門学校教職員等

教職員とともに成長する学校づくり、教職員への支援のあり方、卒業生調査の活用など 内容

教育目標の達成に向けた『入学前』からの指導体制づくり 研修名:

連携企業等:株式会社進研アド

令和7年8月26日(火)15時~16時 期間:

対象: 学校関係者等

近年の大学・短大・専門学校進学者の学力や学習習慣、進学意識について分析 内容

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1)学校関係者評価の基本方針

学校関係者評価は教職員で実施した自己評価を、企業・高等学校・保護者・卒業生等の学校関係者それぞれの視点から意見を伺い、お互いの理解を深めるためのものとする。また、その評価の過程において、自己評価の妥当性を検証するとともに、客観性・透明性をより高め、公共性の高い社会に寄与する学校を目指すことを基本方針とする。

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	教育理念・目標
(2)学校運営	学校運営
(3)教育活動	教育活動
(4)学修成果	学修成果
(5)学生支援	学生支援
(6)教育環境	教育環境
(7)学生の受入れ募集	学生の受入れ募集
(8)財務	財務
(9)法令等の遵守	法令等の遵守
(10)社会貢献・地域貢献	
(11)国際交流	

^{※(10)}及び(11)については任意記載。

(3)学校関係者評価結果の活用状況

学生支援については概ね良い評価を受けた。学生対応は主に担任が窓口となり、当事者から十分にヒアリングし、本人の意思を確認して対応している。 内容に応じて他分望とも、連絡を変にするよう注力しており、今までのとこと大きな問題となることはなく機能している。

いる。内容に応じて他分掌とも連絡を密にするよう注力しており、今までのとこと大きな問題となることはなく機能している。 教育の内部質保証については、職業実践専門課程の認定に伴い順次対応を行っている。今後、情報管理システムを導入し、一元管理を行うとともに、管理体制を階層化し、責任の所在を明確にして管理を徹底していきたい。

(4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

名 前	所 属	任期	種別
有田 滿里子	有限会社有田 代表取締役社長	令和7年4月1日~令和9年3月 31日(2年)	企業等委員
島村 徹	一般社団法人熊本県建築士事務所協会	令和7年4月1日~令和9年3月 31日(2年)	企業等委員
田中 千秋	株式会社放送技研 代表取締役	令和7年4月1日~令和9年3月 31日(2年)	企業等委員
古家 達也	株式会社フィールドワークス 代表取締役社長	令和7年4月1日~令和9年3月 31日(2年)	企業等委員
甲斐 広美	在校生保護者	令和7年4月1日~令和8年3月 31日(1年)	保護者委員
内村 友造	同窓会会長	令和7年4月1日~令和9年3月 31日(2年)	卒業生委員

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

公表時期: 令和7年7月1日

- 5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供して いること。」関係
- (1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

企業等の学校関係者と連携・協力を通じて、健全な学校運営と教職員の資質向上に取り組んでいくことを目的とするため、教育活動等の学校運営 状況に関する情報を提供することを基本方針とする。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

(<u>4) 寺门子校にありる</u> 情報徒供寺への	収組に関するガイドブイン」の項目との対応
ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	ホームページ「学校案内」に掲載
(2)各学科等の教育	ホームページ「学科紹介」に掲載
(3)教職員	ホームページ「教員・職員紹介」に掲載
(4)キャリア教育・実践的職業教育	ホームページ「就職支援」に掲載
(5)様々な教育活動・教育環境	ホームページ「学校生活」に掲載
(6)学生の生活支援	ホームページ「学校生活」に掲載
(7)学生納付金・修学支援	ホームページ「入学案内」及び募集要項に掲載
(8)学校の財務	ホームページ「財務情報」に掲載
(9)学校評価	ホームページ「学校関係者評価結果」に掲載
(10)国際連携の状況	
(11)その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

(ホームページ・) 本報誌等の刊行物 ・ その他()) URL: https://kumamoto-design.ac.jp/school/publishing

公表時期: 令和7年7月1日

授業科目等の概要

	(]	工業	専門	引課程 建築・/	インテリアデザイン 科(インテリアコーディ	ィネ	— ⊦	· 専ュ	タコ	ース	())					
		分類							授	業	方法	場	所	教	員	
	必修	択必	自由選択	授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授 業 時 数	単位数	講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外		兼任	企業等との連携
1	0			設計製図演習	建築設計に先立ち、製図用具の使い方から線の描き方等の基礎技術を修得する。建築設計製図の模写課題を通じ、実際に建築設計や現場で必要とされる建築設計製図の技術及び図面の読解力を修得する。	1 通	90		Δ	0		0		0		
2	0			建築計画 I	建築設計業務に携わった経験を持つ教員が、設計を行う上で必要となる基本的な寸法や各部の要点について解説した後、生活の基盤となる住空間から各種建築物にわたる様々な建築物の特徴や計画要点について解説を行う。		30		0			0		0		
3	0			空間意匠論	大学や専門学校で建築設計を教えた経験を持ち、建築設計事務所で意匠設計に携わった教員が、その見識や経験を活かしての講義をする。デザインは唯一の解発をを構成し、それが社会と対話することにより生み出される。本講義では、これまで創られてきた建築・インテリアに間などを作者の考えと共に紹介し、学生に空間を構成しうる多様な価値観・概念を習得させることを目的とする。	1 通	30		0			0			0	
4	0			建築デザイン史	欧米の大学に留学経験があり、建築設計事務所で建築 意匠に携わっている教員が、その見識や経験を活かした 建築史の講義をする。建築設計上、意匠の占める要素は 非常に大きいといえる。日本・西洋建築史で各時代背景 とともに、国ごとの政治・経済・宗教・気候風土・生活 様式等の違いと、建築技術や材料の変化の過程を学ぶこ とで、建築の創造の原点にあるそれぞれの価値観を習得 する。	通	30		0			0			0	
5	0			構造力学 I	力学の概念、力のつりあい、力とモーメント、断面の性質などの基本的事項の習熟に重点を置き、建築物などにどのような力がかかっているのかを学習する。具体的には、荷重と反力、静定ラーメントラス構造、不静定構造に等について教科書に沿って解説し、基礎的な問題での演習を交えることで理解を深める。	1	30		0			0			0	
6	0			一般構造	現役建築士が、監理業務において担当した実例や現場での経験談を交えながら、3つの主要な構造(木造・鉄筋コンクリート造・鉄骨造)の概要や構成、材料の特徴・特性等について講義する。		30		0	Δ		0			0	0

		1		
7	0	建築材料学	建築には長い歴史があり、いろいろな用途があり、様々な取り決めがある。その建築がどういう歴史をたどって発展してきたのか、また材料にはどんな特徴があるのか、どう使用されるのか、さらに環境問題など、人々の生活の身近にある材料の知識を建築設計、コーディネートの実務経験から解説し施工の面からも理解を深める。	0
8	0	施工I	現場監督として勤務経験を有する教員が、建築工事着工前から完成に至るまでの工程全般に関して、基礎的知識や概要を解説する。具体的には、施工計画の工程及び計画図の理解や、施工管理で考慮すべき材料管理や安全管理の重要事項を講義。さらに、各工事ごとに応工要点や規定の詳細を図式やイラスト・写真を用いて理解を深める。また、契約や仕様書の概要も解説し、建築工事全体の流れを講義する。	0
9	0	CAD演習A	建築設計業務においてCAD製図に携わった経験を持つ教 員が、コンピュータの基本操作から、2次元汎用CAD (jwcad)を利用した実務的な建築製図に必要な知識や 技術を指導する。	
10	0	パースペクティ ブ演習	本講義は建築設計の分野では立体図形の把握と表現は非常に重要な基礎能力である。この演習では、各種投影図 1 法についての講義と演習課題により透視図の制作方法を 後 6 45 6 6 6 6 6 6 6 6 6 6 6 6 6 6 6 6 6	
11	0	建築造形演習	造形に関わる基本的な考え方や工程、表現技法についての演習を行う。着眼、発想を元にしたコンセプトワークにはじまり、エスキス、図面化から造形に至るプロセスを通じて、思考と美的造形の表現力を深める。	0
12	0	色彩学	色彩についての基礎概念を理解し、色がどのような影響を与えるのか、その心理的な役割や効果、調和のとれた配色技法を修得する。また建築やインテリアだけに留ましらず、ファッションやプロダクト、ビジュアルデザインやディスプレイデザインなど様々な分野での基本的な配色技法を修得する。	
13	0	色彩学演習	色彩学で修得した配色技法等を実践的な課題制作を通し体験的に学ぶ。課題としてはインテリアパースやエクステリア、建築外観パース等に色彩計画をするなど、現場で必要とされる色彩についての知識や配色技法、また色彩感覚を養うものとする。	
14	0	グラフィック演 習	広告・看板等のグラフィックデザインの実務経験のある 講師により、DTP (デスクトップパブリッシング) ソフト であるAdobe Illustrator・Photoshopにて実践的な基本 操作を学び、作品集のまとめや最終課題である卒業制作 でのプレゼン用ポードのレイアウトテクニックを修得し ます。	

15	0	デッサン	実技デッサンを通して 正しく物体を認識し正しく描き写すことは非常に重要な基礎能力である。更にアドバンスして構成・造形・応用デッッサンを習得することにより、単なるデッサンから「表現力」へと導くことである。	0
16	0	コーディネート 演習 I	住宅メーカーでコーディネーターとして勤務経験を有する教員が、インテリアコーディネートの基礎を解説しながらコーディネートボード作成の実習を指導する。具体的には、インテリア構成要素の分析方法を学習し、実習として空間イメージボード・抽象イメージボード・外観イメージボードの作成を行う。最後に、自室空間のリフォーム提案の課題を通し、空間寸法の読み取り方や平面図作成の基本修得、イメージを他者に伝える為のボード作成方法を学習する。	
17	0	リフォーム概論	近年、建築物の老朽化やライフスタイルの変化に応じて、既存住宅のリフォームの需要が増えている。この授業では、リフォーム計画にあたっての必要な知識やノウハウ、関連する法規・構造を学ぶ。また多様な要望に応じたプランニング事例をみて、建築物をニーズに合ったものとして変化させる方法についての理解を深める。	
18	0	社会研究 I	働くことの意義、業界研究、自己分析を経て自己の社会的確立を目的とし、進路決定の基本となる考え方と就職前前 30 ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	
19	0	総合デザイン論	多岐に渡るデザイン分野の各専門知識や技術を、各専門 分野の講師陣からオムニバス形式により具体的実例を専 門家の考え方や手法を理解する。	0
20	0	ビジネスマナー	百貨店において、接客サービスに従事し、接遇指導の実績のある教員が、社会人としての基礎力を指導する。第一印象から身だしなみ、正しい言葉遣いから、「話す」「聞く」等の表現を実践的に身に付け、公的な場面での好感のもてるマナーやコミュニケーション力を修得する。	0
21	0	住宅計画論	住宅設計業務に携わった経験を持つ教員が、建築計画 I で履修した基本的な居住空間の計画を踏まえ、生活をより豊かにするために多様化する計画の手法や寸法・構造について詳説する。住まいの歴史やバリアフリーへの対応の仕方、建築基準法の規定や建築にかかわる費用などについても体系的に解説・指導する。	
22	0	福祉住環境計画	超高齢社会の日本では、福祉住環境整備の需要はますます高まっている。高齢者や障害者に対して住みやすい住環境を提案するために、建築の知識に加え、介護、福祉、医療について、総合的に解説する。その人らしい暮らしの回復・実現・維持をサポートするための住環境について、様々な視点から解説し、福祉用具等の活用についても詳説する。	

23	0	人の内数	住宅設計A	住宅メーカーで設計業務の経験を有する教員が、住宅を設計課題とし演習を行う。具体的には延床25㎡の狭小平屋住宅の設計を課題とし、「住宅」という既成概念に対して様々な問題提起を行いながらエスキスを重ね空間構想力を養い、必要な各設計図書の製作を行う。	1 2	45		0	0	0		
24	0		建築設備 I	設備設計事務所での勤務実績がある教員が、その経験を 生かし建築設備(給排水・冷暖房・換気・電気・防災) の基本的知識の理解を目標にし、建築物における設備の 重要性を説く	2	45	0		0		0	
25	0		建築法規	建築基準法は社会情勢の変化等に応じて改正され、複雑化している。建築及び都市の計画、構造環境の全体像を把握するために、建築及び都市に関する法規や建築手法にわたる全般について修得する。	2	30	0		0	0		
26	0		CAD演習B	VectorWorksを利用した2次元製図技法及び3Dモデリングの描画法を修得する。視点のシュミレーション等を通じ、体感的に立体把握をするとともに、図面表現やシュミレーションを活用したプレゼンテーションにかかる技術までを目的とする。	2	135		0	0	0		
27	0		生成AI活用演習	この授業では、生成AIの基礎から実践的な活用までを学びます。学生は生成AIの概念や仕組みを理解し、テキスト生成、画像生成、データ分析など、具体的な応用方法を習得します。最終的には、実際の課題に生成AIを活用して解決策を提案できるスキルを身に付けます。初心者でも理解できるよう、基礎から段階的に発展的な内容へと進みます。	2 前	30		0	0	0		
28	0		家具デザイン演習	住空間に内包されるところの構成要素(インテリア・エレメント)の計画・設計をする領域の家具デザインにおける基本的な形態や材料・構造・人間と道具・空間とのかかわり方、人間の行為行動のサポートのために生まれてきた家具を「より快適に」「楽に」「無駄なく」などの要素を人間工学などで考察し、インテリアの基礎知識を基盤とし、デザインを現実化するための製図やパースの表現方法をまなび、体に優しいデザインについて考える方法論や演習を行う。	2後	30	Δ	0	0		0	
29	0		社会研究Ⅱ	将来の職業への関心を更に深め、働く事の意義や構造について学ぶと同時に、社会におけるコミュニケーションのあり方を修得し、意欲的な人生設計への実現に向けた 選択行動が取れるようになる事を目的とする。	2	15	0		0	0		
30	0		ビジネス概論	1、経営コンサルタントとしての実務経験のある教員が、企業や店舗において売上・利益を上げる基礎知識を身に着けるために学生に身近な各種業界における収益構造について事例を参考に教える。 2、マーケティング(販売促進)の実務経験のある教員が企業の販促活動や広告の手法など、将来、企画・提案のできるデザイナーになるために知っておくべき事項について教える。	2前	15	0		0		0	

31	0		ビジネススキル 演習	ビジネス用アプリケーションソフトを扱う力は、現代では標準スキルとして求められる。本演習では、Microsoft officeのアプリケーションであるWord、Excel、PowerPointについての基本操作について解説した後、実務において必要な応用スキルを身につけるための実践的演習を行う。	2前	30		0		0		0		
32	0		住宅設計B	住宅メーカーで設計業務の経験を有する教員が、住宅を設計課題とし演習の指導を行う。具体的には木造二階度住宅設計を主な課題とし、家族構成や敷地条件を設定し基本計画・基本設計から実施設計へと段階を踏みながら設計を進め、最終的にはインテリアコーディネーションと規定の家具設計までを含めた実施設計図書の作成を行う。また、RCマンションの住宅改装や住宅LDKのリフォームの課題も取り組み、設定した躯体内を変更計画・設計する要領も学習する。	· · · 2前	105		0		0		0		
33	0		コーディネート 演習 II	建築設計事務所にて建築設計、インテリアコーディネートの経験をもつ教員が顧客の要望、ニーズに応え、イメージを実現すべくプランを立てるためのプレゼンテーションツールの技法を演習により修得する。	2	30	Δ	0		0			0	
34	0		コーディネート 演習皿	環境や技術など急速に変化する社会を背景にインテリアコーディネーターの役割は重要になっています。建築計計、コーディネーターの実務経験から多様な生活空間のアドバイザーとしての必要な要素、知識を教科書におい、現場経験を講義する。	2	120	0			0			0	
35	0		卒業制作A	建築設計、施工及びインテリアコーディネートなど空間デザイン分野の実務経験を持つ教員により学生各自が設定されたテーマに対し、これまで習得してきた建築やインテリアなどの空間デザイン領域に関する専門的な知識や技術、感性、表現等を使い、これからの社会への問題提起・解決に向けての提案を行っていく。	2通	345		0		0		0		
36	0		卒業制作C	卒業制作A又はBで学生各自が設定した課題について、 模型製作をおこなう。	2後			0		0		0		
		1	合計	30	3 科	·目			1920	単位	立 (.	単位	時間	1)

卒業要件及び履修方法	授業期間等				
・出席率が80%以上であること ・当該年次の科目全てに合格すること 卒業要件: ・卒業制作又は卒業研究に合格すること ・当該年次の授業料等諸経費が完納されていること	1 学年の学期区分	2 期			
履修方法: 学則に定める教育課程に基づき授業科目を履修し、学修の評価により科目を修得する	1 学期の授業期間	15 週			

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合 については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について〇を付すこと。

職業実践専門課程等の基本情報について

学校名		設置認可年月	月日 核	泛長名			所在地		
熊本デザイン専門	門学校	平成5年12月2	,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,	内藤謙一	〒 (住所) (電話)	862-0973 熊本県熊本市中央区プ 096-364-8500	,		
設置者名 学校法人未来創	造学園	設立認可年月 平成22年3月		表者名 吉山昌利	〒 (住所) (電話)	862-0976 熊本県熊本市中央区プ 096-362-5656	所在地 1品寺2丁目2-38		
分野	認定	課程名	認定学科		専	門士認定年度	高度専門士認定年度	職業実践専	門課程認定年度
文化・教養	工業専	門課程	建築・インテリアテ (商業空間デザイン		平原	以22(2010)年度		平成2	8(2016)年度
学科の目的	建築・インテリフ	'デザイン・家具等	筝の、空間デザイン分 野	予における幅広	い知識と実	践に必要となる技術を有る	する人材を育成し、業界々	∖送り出すことを目6	めとする。
学科の特徴(取得 可能な資格、中退 率 等)	色彩検定、福祉	:住環境コーディネ	ネーター、リフォームスク	タイリスト、イン・	テリアコー・	ディネーター、宅地建物取	引士、建築士、建築施工	管理技士等の取得	を目指す。
修業年限	昼夜		要な総授業時数又は総 位数 講義 演習 実行		実習	実験	実技		
2	昼間 ※単かに	位時間、単位いずれ 記入	1,920 単位時間 単位	615	単位時間単位	1,305 単位時間 単位	0 単位時間 単位	0 単位時間 単位	0 単位時間
生徒総定員	生徒実員(A) 留学生	数(生徒実員の内数)(B)	留学生割		中退率	74	74	- I
80 人	70 人		0 人	0	%	3 %			
	■卒業者数(11		Ļ	:			
	■就職希望者 ■就職者数(E	:	9		<u> </u>				
	■地元就職者 ■就職率(E/I		4 100%		人 %				
		ング める地元就職者の	の割合 (F/E)						
	■卒業者に占/	かる就職者の割合	44% (E/C)		%				
+4 mm fr a .11 \ \			82%		%				
	■進学者数 ■その他		U		^				
	特記なし								
	(令和 ■ ナ か詩聯件		音に関する令和7年5月	1日時点の情報	長)				
	■主な就職先 (令和6年度卒業								
			ウスメーカー、家具・	インテリア雑貨	〔販売店等				
		機関等から第三				無			
第三者による		は以下について任							
学校評価	評価[団体:		受審年月:		評価系	結果を掲載した ムページURL		
当該学科の									
ホームページ URL	https://www.k	umamoto-desig	n.ac.jp						
	(A:単位時間								
		業時数						1,920 単位時間	
			等と連携した実験・実 [・]	習・実技の授業	美時数			0 単位時間	
			等と連携した演習の授					0 単位時間	
		うち必修打	受業時数					30 単位時間	
			うち企業等と連携した	た必修の実験・	実習・実	支の授業時数		0 単位時間	
			うち企業等と連携した	た必修の演習の	授業時数			0 単位時間	
企業等と連携した		(うち企業	業等と連携したインタ ・	ーンシップの招	受業時数)			0 単位時間	
実習等の実施状況 (A、Bいずれか									
(A、Bいすれか) に記入)	(B:単位数に								
1~66人)		***							
これの		位数						0 単位	
ICALX)		.位数 うち企業等	等と連携した実験・実		数			0 単位	
		位数 うち企業等 うち企業等	等と連携した演習の単·		拉数			0 単位	
CaLX)		.位数 うち企業等	等と連携した演習の単 単位数	位数		+ の単体数		0 単位 0 単位 0 単位	
I~BLX/		位数 うち企業等 うち企業等	等と連携した演習の単位数 うち企業等と連携し1	位数た必修の実験・	実習・実	支の単位数		0 単位 0 単位 0 単位 0 単位	
ICBLX/		位数 うち企業等 うち企業等 うち必修庫	等と連携した演習の単 単位数 うち企業等と連携した うち企業等と連携した。	位数 た必修の実験・ た必修の演習の	実習・実)単位数	支の単位数		0 単位 0 単位 0 単位 0 単位 0 単位	
ICBLX/		位数 うち企業等 うち企業等 うち必修庫	等と連携した演習の単位数 うち企業等と連携し1	位数 た必修の実験・ た必修の演習の	実習・実)単位数	支の単位数		0 単位 0 単位 0 単位 0 単位	
IC BLX/		位数 うち企業等 うち企業等 うち必修庫	等と連携した演習の単 単位数 うち企業等と連携した うち企業等と連携した。	位数 た必修の実験・ た必修の演習の	実習・実)単位数	支の単位数		0 単位 0 単位 0 単位 0 単位 0 単位	
ICBLX/	総単 ① の を 程 の	位数 うち企業等 うち必修 うち企業等 うち必修 (うち企ま) 現当する教育等	等と連携した演習の単 単位数 うち企業等と連携した うち企業等と連携した。	位数 た必修の実験・ た必修の実験・ た必修の演習の ーンシップの単 校等において 、当該専門課	実習・実 単位数 単位数)	技の単位数 大の単位数 大校設置基準第41条第1項第	115)	0 単位 0 単位 0 単位 0 単位 0 単位	
I GLX/	総単 ① その 程の 年 レ	位数 うち企業等 うち必修 (うち企業等 うち必修り (うち企業等 を受ける教育等 のできる教育等 を表する教育等	等と連携した演習の単・ 単位数 うち企業等と連携した うち企業等と連携したインター は、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では	位数 た必修の実験・ た必修の実験・ た必修の演習の ーンシップの単 校等において 、当該専門課	実習・実)単位数 単位数) (専修学			0 単位 0 単位 0 単位 0 単位 0 単位 0 単位	
	総単 ① のの 程 の 2 ②	位数 うち企業等 うち必修 うち必修 なの専門等 理当する教育等 を発と当該 上となる者	等と連携した演習の単・ 単位数 うち企業等と連携した うち企業等と連携した うち企業等と連携したインタ・ 課程を修了した後、学 に従事した者であって 業務に従事した期間と する者等	位数 た必修の実験・ た必修の実験・ た必修の演習の ーンシップの単 校等において 、当該専門課	実習・実 単位数 単位数) (専修う	校設置基準第41条第1項第	2号)	0 単位 0 単位 0 単位 0 単位 0 単位 0 単位	
教員の属性(専任 教員について記	総単 ① で をの 程 の り ② ② ③	位数 うち企業等 うち企業等 うち必修事 (うち企業 (うち企業 (うち企ま) (うち企ま) (うち企ま) (ままなる者を当該 と当該 とよとなる者	等と連携した演習の単 単位数 うち企業等と連携した うち企業等と連携した ま等と連携したインター 課程を修了した後、学 に従事した者であって 業務に従事した期間と する者等	位数 た必修の実験・ た必修の実験・ た必修の演習の ーンシップの単 校等において 、当該専門課	実習・実 単位数 単位数) (専修学 (専修学	校設置基準第41条第1項第 校設置基準第41条第1項第 校設置基準第41条第1項第	2号) 3号)	0単位 0単位 0単位 0単位 0単位 1人	
教員の属性(専任	総単① (元を)(2)③ (4)	位数	等と連携した演習の単 単位数 うち企業等と連携した うち企業等と連携した ま等と連携したインター 課程を修了した後、学 に従事した者であって 業務に従事した期間と する者等	位数 た必修の実験・ た必修の実験・ た必修の演習の ーンシップの単 校等において 、当該専門課	実習・実)単位数 (中修学 (専修学 (専修学	校設置基準第41条第1項第 校設置基準第41条第1項第 校設置基準第41条第1項第 校設置基準第41条第1項第	2号) 3号) (4号)	0単位 0単位 0単位 0単位 0単位 1 人 3 人 0 人	
教員の属性(専任 教員について記	②③④⑤	位数 うち企業等 うち企業等 うち必修 が	等と連携した演習の単 単位数 うち企業等と連携した うち企業等と連携した ま等と連携したインター 課程を修了した後、学 に従事した者であって 業務に従事した期間と する者等	位数 た必修の実験・ た必修の実験・ た必修の演習の ーンシップの単 校等において 、当該専門課	実習・実)単位数 (中修学 (専修学 (専修学	校設置基準第41条第1項第 校設置基準第41条第1項第 校設置基準第41条第1項第	2号) 3号) (4号)	0単位 0単位 0単位 0単位 0単位 0単位 0単位 0 単位	
教員の属性(専任 教員について記	総単① (元を)(2)③ (4)	位数	等と連携した演習の単 単位数 うち企業等と連携した うち企業等と連携した ま等と連携したインター 課程を修了した後、学 に従事した者であって 業務に従事した期間と する者等	位数 た必修の実験・ た必修の実験・ た必修の演習の ーンシップの単 校等において 、当該専門課	実習・実)単位数 (中修学 (専修学 (専修学	校設置基準第41条第1項第 校設置基準第41条第1項第 校設置基準第41条第1項第 校設置基準第41条第1項第	2号) 3号) (4号)	0単位 0単位 0単位 0単位 0単位 1 人 3 人 0 人	
教員の属性(専任 教員について記	総単 ① のの 程の 年 以 ② ③ ③ (⑤ 計	位数 うち企業等 うち必修 うち企業等 うち必修 (うち企ま を学校の専門等 担当業年限と さから、 で学位を有す。 高等学校教諭等 修士の学位又は その他	等と連携した演習の単・ 単位数 うち企業等と連携した うち企業等と連携したインター は、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では	位数 た必修の実験・ た必修の演習の ーンシップの単 校等において 会当該専門は を通算して六	実習・実 単位数 (専修う (専修う (専修う (専修う	校設置基準第41条第1項第 校設置基準第41条第1項第 校設置基準第41条第1項第 校設置基準第41条第1項第	25) 35) 45)	0単位 0単位 0単位 0単位 0単位 0単位 0単位 0 単位	

- 1. 「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っているこ と。」関係
- (1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

業界における人材の専門性に関する動向、地域の産業振興の方向性、必要な実務に関する知識や技能などを十分に把握・分析したうえで、当該専 門課程の教育を施すためにふさわしいと考えられる授業科目の開設や、授業内容・方法の改善・工夫を行い、企業の要請を十分に活かし、実践的 かつ専門的な職業教育を主体的に行うために、教育課程編成委員会を設置する。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

教育課程編成委員会委員は学校法人未来創造学園職員及び企業・団体役職者等の外部委員からなるものとし、互いの視点からの意見を積極的 に交換・活用し、より良い教育課程の編成を協力して行うものと位置付ける。

教育課程編成委員会は、各学科から示されたカリキュラム等の内容や実施状況について、業界において必要となる技術や知識を有する人材を育て る観点から十分な審議を行い、教育課程の編成や内容についての具体的な方策を講じ、意見表明を行う。その後、各学科において当該意見を反映 した授業実施案を作成し、次回の教育課程編成委員会にて報告・審議・承認を受けたのち、学校長決裁を経て次年度教育課程が決定される。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和7年10月1日現在

名 前	所 属	任期	種別
島村 徹	一般社団法人熊本県建築士事務所協会 監事	令和6年4月1日~令和8年3 月31日(2年)	1
田中 誠一	株式会社コムハウス 代表取締役	令和6年4月1日~令和8年3 月31日(2年)	3
内藤 謙一	学校法人未来創造学園 熊本デザイン専門学校 学校長	令和7年4月1日~令和8年3 月31日(1年)	_
児玉 守	学校法人未来創造学園 熊本デザイン専門学校 教務部長	令和7年4月1日~令和8年3 月31日(1年)	_
千田 浩一	学校法人未来創造学園 熊本デザイン専門学校 教務	令和7年4月1日~令和8年3 月31日(1年)	_

- ※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①~③のいずれに該当するか記載すること。
- (当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「一」を記載してください。) ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、
- 地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
 - ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員
- (4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回 (3月、8月)

(開催日時(実績))

第1回 令和6年10月3日 10:30~11:30

第2回 令和7年3月21日 14:00~15:00

- (5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況
- ※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

【第1回】

(意見)生成AIの進化は予想以上であり、実務で使っている会社や事務所も増えてきた印象がある。カリキュラム・情報収集を含め、柔軟な対応を図ってほしい。

(取組)AI関連の授業については今年度のカリキュラムは次年度採用できない可能性が高く、年度末に改めてカリキュラム更新を検討したい。また、教員をAI関連の研修に派遣し 最新の情報収集にも努める予定である。併せて、AI業界から優秀な人材を顧問として迎える計画も進めている。 【第2回】

(意見)業界の資格も様々あるが、授業科目と取得資格の関連をもっとはっきりしたほうが良い。学生の意欲創出につながると思う。また、授業実施時期と取得資格の試験日をリン させる工夫もしてほしい

(取組)授業ガイダンス時点で、取得目標資格を明示し、試験日までのステップを細かく示すこととした。また、極力試験日にむけ授業を進められるよう授業実施時期を調整した。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

空間デザインに関連する業界における実践的な技術や知識を有する人材を育てることを目的とし、授業内容について企業側講師と担当教員が十分 な検討を行ったうえで、できうる限り企業・業界の現場における実務プロセスやノウハウを重視した授業展開を行うことを基本方針とする。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

教育課程編成委員会等において出された意見を基に、事前に職業教育協定書により協定を締結した企業側講師と担当教員による綿密な打ち合わ せを行い、授業内容や学修成果の評価方法を決定する。また、演習期間中は随時情報交換を行うことで、学修効果の向上を図るとともに、演習終 了後には、企業側講師による学生の学修成果の評価を踏まえ、担当教員が成績評価を行う。

(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科 目 名	企業連携の方	科 目 概 要	連	携	企	業	等
	未守かりの神	現役建築士が、監理業務において担当した実例や現場での経験 談を交えながら、3つの主要な構造(木造・鉄筋コンクリート造・鉄 骨造)の概要や構成、材料の特徴・特性等について講義する。		シンク	ř		

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

「学校法人未来創造学園熊本デザイン専門学校教職員研修規程」に基づき、専攻分野に係わる教員の資質(知識、技術、技能)が何かを、関連す る企業や関連団体等に広く意見を伺い、効果的な指導がなされるよう研修計画を立てて実施する。また、学級運営力の向上や教育法の習得等の研 修にも併せて取り組んでいく。研修機会としては、関連する企業や関連団体等から招いた講師による学内研修や、各種団体が開催する学外研修が 考えられる。

(2)研修等の実績

①専攻分野における実務に関する研修等

JapanHome & BuildingShow2024 連携企業等:一般社団法人日本能率協会 研修名:

対象: 建築・インテリア業界等

対象: 企業・学校関係者等

対象: 建築・インテリア業界等

対象: 学校関係者等

期間: 令和6年11月20日(水)~11月22日(金)

建材やインテリア製品、構造材・部材、設備、サービスなど住宅から商業施設、まちづくりにおける建築に関する幅広い最新情報を知る。 内容

JAPAN RIJII D-建築の先端技術展-連携企業等: RX Japan株式会社 研修名:

期間: 令和6年12月11日(水)~12月13日(金) 対象: 建築・不動産業界等

建築・建設・不動産業界の最新の製品が出展する専門展示会で、業界セミナーも開催され9コマ受講 内容

研修名: アイカ現代建築セミナー 連携企業等・アイカ現代建築セミナー実行委員会

2024年11月27日(水) 期間: 対象: 建築業界等

建築文化の向上と発展を目的に、国内外の著名な建築家を講師に迎え、住宅・環境・都市空間など幅広い分野にわたるセミナー 内容

②指導力の修得・向上のための研修等

連携企業等: 未来創造学園 研修名: 最新生成AIトレンドについて

令和6年7月31日(水)14時15分~16時 期間:

内容 AI導入の成功事例、AI活用による地域戦略、人材育成の新しい方法論

研修名: 発達障害のある生徒への具体的な支援/合理的配慮 連携企業等・熊本市発達障がい者支援センターみなわ

期間: 令和6年8月4日(木)10時~12時 合理的配慮の基本、現場で悩みがちなケースの共有、支援や環境調整等についての考え方 内容

大学志向が高まる中での専門学校における学生募集戦略とは 連携企業等:株式会社進研アド 研修名:

期間: 令和6年9月24日(火)16時~17時 対象: 専門学校教職員等

高等教育機関[大学・専門学校]の最新動向、高校現場における進路研究の最新動向 内容

(3)研修等の計画

期間:

①専攻分野における実務に関する研修等

オルガテック東京2025 SHIFT DESIGN 連携企業等:一般社団法人日本オフィス家具協会 研修名:

期間: 令和7年6月3日(火)~6月5日(木)

オフィス家具やマテリアル、ICTテクノロジーなど、未来の働き方や空間づくりの最新トレンド情報を収集及び業界セミナーの受講 内容

JapanHome & BuildingShow2023 連携企業等:一般社団法人日本能率協会 研修名: 令和7年11月19日(水)~11月21日(金) 対象: 建築・インテリア業界等

建材やインテリア製品、構造材・部材、設備、サービスなど住宅から商業施設、まちづくりにおける建築に関する幅広い最新情報を 内容 知る。

オンライン木造建築講座 連携企業等: 高知県立林業大学校 研修名:

期間: 2025年7月18日(金) 対象: 建築・インテリア業界等

「鉄と小径材で薄い一枚屋根をつくる」高知県産の流通製材を用い、鉄を適材適所に併用することで軽量かつ大スパンを覆う大屋 根を実現する構法について学ぶ。木材の地域利用に基づきつつ、鉄とのハイブリッドによる構造的合理性と意匠的洗練を両立させ 内容

る試み。

②指導力の修得・向上のための研修等

専門学校における発達障害支援とは? 連携企業等: 筑波大学ダボットプロジェクト 研修名:

期間: 令和7年1月16日(火)17時~19時 対象:一般・学校教職員等

専門学校における発達障害支援をテーマとし、知見、学生支援の実態、支援ツールの活用について 内容

未来の専修学校をつくる~教員研修と卒業生調査のヒント~ 連携企業等: 株式会社三菱総合研究所 研修名:

対象: 専門学校教職員等 期間: 令和7年2月18日(火)16時~18時

内容 教職員とともに成長する学校づくり、教職員への支援のあり方、卒業生調査の活用など

教育目標の達成に向けた『入学前』からの指導体制づくり 研修名: 連携企業等:株式会社進研アド

期間: 令和7年8月26日(火)15時~16時 対象: 学校関係者等

内容 近年の大学・短大・専門学校進学者の学力や学習習慣、進学意識について分析 4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1)学校関係者評価の基本方針

学校関係者評価は教職員で実施した自己評価を、企業・高等学校・保護者・卒業生等の学校関係者それぞれの視点から意見を伺い、お互いの理解を深めるためのものとする。また、その評価の過程において、自己評価の妥当性を検証するとともに、客観性・透明性をより高め、公共性の高い社会に寄与する学校を目指すことを基本方針とする。

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念·目標	教育理念·目標
(2)学校運営	学校運営
(3)教育活動	教育活動
(4)学修成果	学修成果
(5)学生支援	学生支援
	教育環境
(7)学生の受入れ募集	学生の受入れ募集
(8)財務	財務
(9)法令等の遵守	法令等の遵守
(10)社会貢献・地域貢献	
(11)国際交流	

^{※(10)}及び(11)については任意記載。

(3)学校関係者評価結果の活用状況

学生支援については概ね良い評価を受けた。学生対応は主に担任が窓口となり、当事者から十分にヒアリングし、本人の意思を確認して対応している。内容に応じて他分掌とも連絡を密にするよう注力しており、今までのとこと大きな問題となることはなく機能している。 教育の内部質保証については、職業実践専門課程の認定に伴い順次対応を行っている。今後、情報管理システムを導入し、一元管理を行うととも

に、管理体制を階層化し、責任の所在を明確にして管理を徹底していきたい。

(4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

名 前	所属	任期種	別
有田 滿里子	有限会社有田 代表取締役社長	令和7年4月1日~令和9年3月 31日(2年) 企業等	委員
島村 徹	一般社団法人熊本県建築士事務所協会	令和7年4月1日~令和9年3月 31日(2年) 企業等	委員
田中 千秋	株式会社放送技研 代表取締役	令和7年4月1日~令和9年3月 31日(2年) 企業等	委員
古家 達也	株式会社フィールドワークス 代表取締役社長	令和7年4月1日~令和9年3月 31日(2年) 企業等	委員
甲斐 広美	在校生保護者	令和7年4月1日~令和8年3月 31日(1年) 保護者	香員
内村 友造	同窓会会長	令和7年4月1日~令和9年3月 31日(2年) 卒業生	委員

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ・) 本報誌等の刊行物 ・ その他()) URL: https://kumamoto-design.ac.jp/school/publishing

公表時期: 令和7年7月1日

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

企業等の学校関係者と連携・協力を通じて、健全な学校運営と教職員の資質向上に取り組んでいくことを目的とするため、教育活動等の学校運営 状況に関する情報を提供することを基本方針とする。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

(4) 寺口子校にありる用報徒法寺への	秋祖に関するガイドブイン」の項目との対応
ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	ホームページ「学校案内」に掲載
(2)各学科等の教育	ホームページ「学科紹介」に掲載
(3)教職員	ホームページ「教員・職員紹介」に掲載
(4)キャリア教育・実践的職業教育	ホームページ「就職支援」に掲載
(5)様々な教育活動・教育環境	ホームページ「学校生活」に掲載
(6)学生の生活支援	ホームページ「学校生活」に掲載
(7)学生納付金・修学支援	ホームページ「入学案内」及び募集要項に掲載
	ホームページ「財務情報」に掲載
(9)学校評価	ホームページ「学校関係者評価結果」に掲載
(10)国際連携の状況	
(11)その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

(ホームページ ·) な報誌等の刊行物 · その他())

URL: https://kumamoto-design.ac.jp/school/publishing

公表時期: 令和7年7月1日

授業科目等の概要

				課程 建築・/	インテリアデザイン 科(商業空間デザイン!	専攻		-ス)								
		分類	Į į						授	業プ	方法	場	所	教	員	
	必修	択必	自由選択	授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授 業 時 数	単位数	講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外		兼任	企業等との連携
1	0			設計製図演習	建築設計に先立ち、製図用具の使い方から線の描き方等の基礎技術を修得する。建築設計製図の模写課題を通じ、実際に建築設計や現場で必要とされる建築設計製図の技術及び図面の読解力を修得する。	1 通	90		Δ	0		0		0		
2	0			建築計画 I	建築設計業務に携わった経験を持つ教員が、設計を行う上で必要となる基本的な寸法や各部の要点について解説した後、生活の基盤となる住空間から各種建築物にわたる様々な建築物の特徴や計画要点について解説を行う。		30		0			0		0		
3	0			空間意匠論	大学や専門学校で建築設計を教えた経験を持ち、建築設計事務所で意匠設計に携わった教員が、その見識を経験を活かしての講義をする。デザインは唯一の解発を持成し、それが社会と対話することにより生み出される。本講義では、これまで創られてきた建築・インテリアは間などを作者の考えと共に紹介し、学生に空間を構成しうる多様な価値観・概念を習得させることを目的とする。	1 通	30		0			0			0	
4	0			建築デザイン史	欧米の大学に留学経験があり、建築設計事務所で建築 意匠に携わっている教員が、その見識や経験を活かした 建築史の講義をする。建築設計上、意匠の占める要素は 非常に大きいといえる。日本・西洋建築史で各時代背景 とともに、国ごとの政治・経済・宗教・気候風土・生活 様式等の違いと、建築技術や材料の変化の過程を学ぶこ とで、建築の創造の原点にあるそれぞれの価値観を習得 する。	通	30		0			0			0	
5	0			構造力学 I	力学の概念、力のつりあい、力とモーメント、断面の性質などの基本的事項の習熟に重点を置き、建築物などにどのような力がかかっているのかを学習する。具体的には、荷重と反力、静定ラーメン、トラス構造、不静定構造に等について教科書に沿って解説し、基礎的な問題での演習を交えることで理解を深める。	1	30		0			0			0	
6	0			一般構造	現役建築士が、監理業務において担当した実例や現場での経験談を交えながら、3つの主要な構造(木造・鉄筋コンクリート造・鉄骨造)の概要や構成、材料の特徴・特性等について講義する。		30		0	Δ		0			0	0

		1		
7	0	建築材料学	建築には長い歴史があり、いろいろな用途があり、様々な取り決めがある。その建築がどういう歴史をたどって発展してきたのか、また材料にはどんな特徴があるのか、どう使用されるのか、さらに環境問題など、人々の生活の身近にある材料の知識を建築設計、コーディネートの実務経験から解説し施工の面からも理解を深める。	0
8	0	施工I	現場監督として勤務経験を有する教員が、建築工事着工前から完成に至るまでの工程全般に関して、基礎的知識や概要を解説する。具体的には、施工計画の工程及び計画図の理解や、施工管理で考慮すべき材料管理や安全管理の重要事項を講義。さらに、各工事ごとに応工要点や規定の詳細を図式やイラスト・写真を用いて理解を深める。また、契約や仕様書の概要も解説し、建築工事全体の流れを講義する。	0
9	0	CAD演習A	建築設計業務においてCAD製図に携わった経験を持つ教 員が、コンピュータの基本操作から、2次元汎用CAD (jwcad)を利用した実務的な建築製図に必要な知識や 技術を指導する。	
10	0	パースペクティ ブ演習	本講義は建築設計の分野では立体図形の把握と表現は非常に重要な基礎能力である。この演習では、各種投影図 1 法についての講義と演習課題により透視図の制作方法を 後 6 45 6 6 6 6 6 6 6 6 6 6 6 6 6 6 6 6 6	
11	0	建築造形演習	造形に関わる基本的な考え方や工程、表現技法についての演習を行う。着眼、発想を元にしたコンセプトワークにはじまり、エスキス、図面化から造形に至るプロセスを通じて、思考と美的造形の表現力を深める。	0
12	0	色彩学	色彩についての基礎概念を理解し、色がどのような影響を与えるのか、その心理的な役割や効果、調和のとれた配色技法を修得する。また建築やインテリアだけに留ましらず、ファッションやプロダクト、ビジュアルデザインやディスプレイデザインなど様々な分野での基本的な配色技法を修得する。	
13	0	色彩学演習	色彩学で修得した配色技法等を実践的な課題制作を通し体験的に学ぶ。課題としてはインテリアパースやエクステリア、建築外観パース等に色彩計画をするなど、現場で必要とされる色彩についての知識や配色技法、また色彩感覚を養うものとする。	
14	0	グラフィック演 習	広告・看板等のグラフィックデザインの実務経験のある 講師により、DTP (デスクトップパブリッシング) ソフト であるAdobe Illustrator・Photoshopにて実践的な基本 操作を学び、作品集のまとめや最終課題である卒業制作 でのプレゼン用ポードのレイアウトテクニックを修得し ます。	

15	0	デッサン	実技デッサンを通して 正しく物体を認識し正しく描き写すことは非常に重要な基礎能力である。更にアドバンスして構成・造形・応用デッッサンを習得することにより、単なるデッサンから「表現力」へと導くことである。	0
16	0	コーディネート 演習 I	住宅メーカーでコーディネーターとして勤務経験を有する教員が、インテリアコーディネートの基礎を解説しながらコーディネートボード作成の実習を指導する。具体的には、インテリア構成要素の分析方法を学習し、実習として空間イメージボード・抽象イメージボード・外観イメージボードの作成を行う。最後に、自室空間のリフォーム提案の課題を通し、空間寸法の読み取り方や平面図作成の基本修得、イメージを他者に伝える為のボード作成方法を学習する。	
17	0	リフォーム概論	近年、建築物の老朽化やライフスタイルの変化に応じて、既存住宅のリフォームの需要が増えている。この授業では、リフォーム計画にあたっての必要な知識やノウハウ、関連する法規・構造を学ぶ。また多様な要望に応じたプランニング事例をみて、建築物をニーズに合ったものとして変化させる方法についての理解を深める。	
18	0	社会研究 I	働くことの意義、業界研究、自己分析を経て自己の社会的確立を目的とし、進路決定の基本となる考え方と就職前前 30 ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	
19	0	総合デザイン論	多岐に渡るデザイン分野の各専門知識や技術を、各専門 分野の講師陣からオムニバス形式により具体的実例を専 門家の考え方や手法を理解する。	0
20	0	ビジネスマナー	百貨店において、接客サービスに従事し、接遇指導の実績のある教員が、社会人としての基礎力を指導する。第一印象から身だしなみ、正しい言葉遣いから、「話す」「聞く」等の表現を実践的に身に付け、公的な場面での好感のもてるマナーやコミュニケーション力を修得する。	0
21	0	住宅計画論	住宅設計業務に携わった経験を持つ教員が、建築計画 I で履修した基本的な居住空間の計画を踏まえ、生活をより豊かにするために多様化する計画の手法や寸法・構造について詳説する。住まいの歴史やバリアフリーへの対応の仕方、建築基準法の規定や建築にかかわる費用などについても体系的に解説・指導する。	
22	0	福祉住環境計画	超高齢社会の日本では、福祉住環境整備の需要はますます高まっている。高齢者や障害者に対して住みやすい住環境を提案するために、建築の知識に加え、介護、福祉、医療について、総合的に解説する。その人らしい暮らしの回復・実現・維持をサポートするための住環境について、様々な視点から解説し、福祉用具等の活用についても詳説する。	

23	0	商業施設設計A	商業デザイン設計事務所での実務経験のある教員が、その経験を生かして商業施設の計画、デザイン、設計について指導する。 主に商業施設建築を題材とした設計演習を行なう。住施設と比較し商業施設に求められる性質・機能を理解し、商業施設建築の発想・企画立案の基礎を学習する。	1	45		0	0	0		
24	0	建築設備 I	設備設計事務所での勤務実績がある教員が、その経験を 生かし建築設備(給排水・冷暖房・換気・電気・防災) の基本的知識の理解を目標にし、建築物における設備の 重要性を説く	2	45	0		0		0	
25	0	建築法規	建築基準法は社会情勢の変化等に応じて改正され、複雑化している。建築及び都市の計画、構造環境の全体像を把握するために、建築及び都市に関する法規や建築手法にわたる全般について修得する。	2	30	0		0	0		
26	0	CAD演習B	VectorWorksを利用した2次元製図技法及び3Dモデリングの描画法を修得する。視点のシュミレーション等を通じ、体感的に立体把握をするとともに、図面表現やシュミレーションを活用したプレゼンテーションにかかる技術までを目的とする。	2	135		0	0	0		
27	0	生成AI活用演習	この授業では、生成AIの基礎から実践的な活用までを学びます。学生は生成AIの概念や仕組みを理解し、テキスト生成、画像生成、データ分析など、具体的な応用方法を習得します。最終的には、実際の課題に生成AIを活用して解決策を提案できるスキルを身に付けます。初心者でも理解できるよう、基礎から段階的に発展的な内容へと進みます。	2 前	30		0	0	0		
28	0	家具デザイン演習	住空間に内包されるところの構成要素 (インテリア・エレメント)の計画・設計をする領域の家具デザインにおける基本的な形態や材料・構造・人間と道具・空間とれてきた家具を「より快適に」「楽に」「無駄なく」などの要素を人間工学などで考察し、インテリアの基礎知識を基盤とし、デザインを現実化するための製図やパースの表現方法をまなび、体に優しいデザインについて考える方法論や演習を行う。	2後	30	Δ	0	0		0	
29	0	社会研究Ⅱ	将来の職業への関心を更に深め、働く事の意義や構造について学ぶと同時に、社会におけるコミュニケーションのあり方を修得し、意欲的な人生設計への実現に向けた 選択行動が取れるようになる事を目的とする。	2	15	0		0	0		
30	0	ビジネス概論	1、経営コンサルタントとしての実務経験のある教員が、企業や店舗において売上・利益を上げる基礎知識を身に着けるために学生に身近な各種業界における収益構造について事例を参考に教える。 2、マーケティング(販売促進)の実務経験のある教員が企業の販促活動や広告の手法など、将来、企画・提案のできるデザイナーになるために知っておくべき事項について教える。	2前	15	0		0		0	

31	0				ビジネス用アプリケーションソフトを扱う力は、現代では標準スキルとして求められる。本演習では、Microsoft officeのアプリケーションであるWord、Excel、PowerPointについての基本操作について解説した後、実務において必要な応用スキルを身につけるための実践的演習を行う。	ή 3	0		0	0	0		
32	0			商業施設設計B	商業デザイン設計事務所での実務経験のある教員が、その経験を生かして商業施設の計画、デザイン、設計について指導する。 異なる業種・業態における設計演習を行い、各施設において求められる事、可能性や有効活用を考察し、付加価値のある商空間を企画提案する。企画した商空間は、内装設計図の作成、及びプレゼンテーションを行い、商業施設における基本設計業務を理解する。	ή 1C	05		0	0	0		
33	0				建築設計事務所にて建築設計、インテリアコーディネートの経験をもつ教員が顧客の要望、ニーズに応え、イ 2メージを実現すべくプランを立てるためのプレゼンテー 前ションツールの技法を演習により修得する。		0	Δ	0	0		0	
34	0			コーディネート 演習Ⅲ	環境や技術など急速に変化する社会を背景にインテリアコーディネーターの役割は重要になっています。建築設計、コーディネーターの実務経験から多様な生活空間のアドバイザーとしての必要な要素、知識を教科書にそい、現場経験を講義する。		20	0		0		0	
35	0			卒業制作A	建築設計、施工及びインテリアコーディネートなど空間デザイン分野の実務経験を持つ教員により学生各自が設定されたテーマに対し、これまで習得してきた建築やインテリアなどの空間デザイン領域に関する専門的な知識や技術、感性、表現等を使い、これからの社会への問題提起・解決に向けての提案を行っていく。	<u>新</u> 34	15		0	0	0		
36	0			卒業制作C	卒業制作A又はBで学生各自が設定した課題について、 模型製作をおこなう。				0	0	0		
合計 36 科目 1920 単位(単位時間)])							

卒業要件及び履修方法	授業期間等				
・出席率が80%以上であること ・当該年次の科目全てに合格すること 卒業要件: ・卒業制作又は卒業研究に合格すること ・当該年次の授業料等諸経費が完納されていること	1 学年の学期区分	2 期			
履修方法: 学則に定める教育課程に基づき授業科目を履修し、学修の評価により科目を修得する	1 学期の授業期間	15 週			

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合 については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について〇を付すこと。